

フジクラグループ 統合報告書 2018



この印刷物で使用している用紙は、森を元気にするために間伐した木材の有効活用に役立っています。

“Tsunagu” Technology

目次

Introduction

- 03 Q1 “つなぐ”テクノロジーとは?
- 04 Q2 成長ストーリーをどう描いているか?
- 05 Q3 大切にしている取り組みとは?
- 06 フジクラグループ経営理念MVCV
- 07 経営理念浸透活動

Strategic Section

- 09 トップメッセージ
- 17 フジクラグループの価値創造
 - 17 価値創造モデル
 - 19 創業からの歩み
 - 21 私たちの生活をさまざまなシーンで支えるフジクラグループの“つなぐ”テクノロジー
 - 23 フジクラグループの概要
 - 25 経営資本
- 27 フジクラグループの経営戦略
 - 27 フジクラグループが目指すサステナビリティ
 - 29 SDGs達成に向けたCSV戦略
 - 33 ESG戦略(環境長期ビジョン2050、健康経営)
 - 35 2020中期経営計画
 - 38 2030年ビジョン
 - 39 研究開発
- 41 カンパニー別事業概況
 - 41 エネルギー・情報通信カンパニー
 - 43 エレクトロニクスカンパニー
 - 45 自動車電装カンパニー
 - 47 不動産カンパニー

Sustainability Section

- 48 フジクラグループならではの取り組み
 - 49 藤倉学園
 - 51 「フジクラ 木場千年の森」
- 53 ESG活動報告
 - 53 CSRマネジメント
 - 55 環境
 - 57 社会
 - 61 コーポレート・ガバナンス
 - 65 社会貢献活動
- 67 会社概要
 - 67 グループネットワーク
主要会社一覧
会社概要・株式情報

編集方針

「フジクラグループ統合報告書2018」は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様に、フジクラグループの持続的な成長へ向けた取り組みを多面的にご理解いただくことを主眼に編集しています。本報告書による情報開示とお読みいただいた皆様の情報利用を通じて、ステークホルダーエンゲージメントの深化を目指しています。

本報告書の役割

- 情報ギャップの解消
- 質の高い対話の実践
- 経営活動への反映

参考ガイドライン

- IIRC(国際統合報告評議会)「国際統合報告フレームワーク」
- GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポートニング・スタンダード」
- 経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」

決算に関する詳細情報

2017年度決算の詳細は決算関連情報をご覧ください。
<http://www.fujikura.co.jp/ir/>

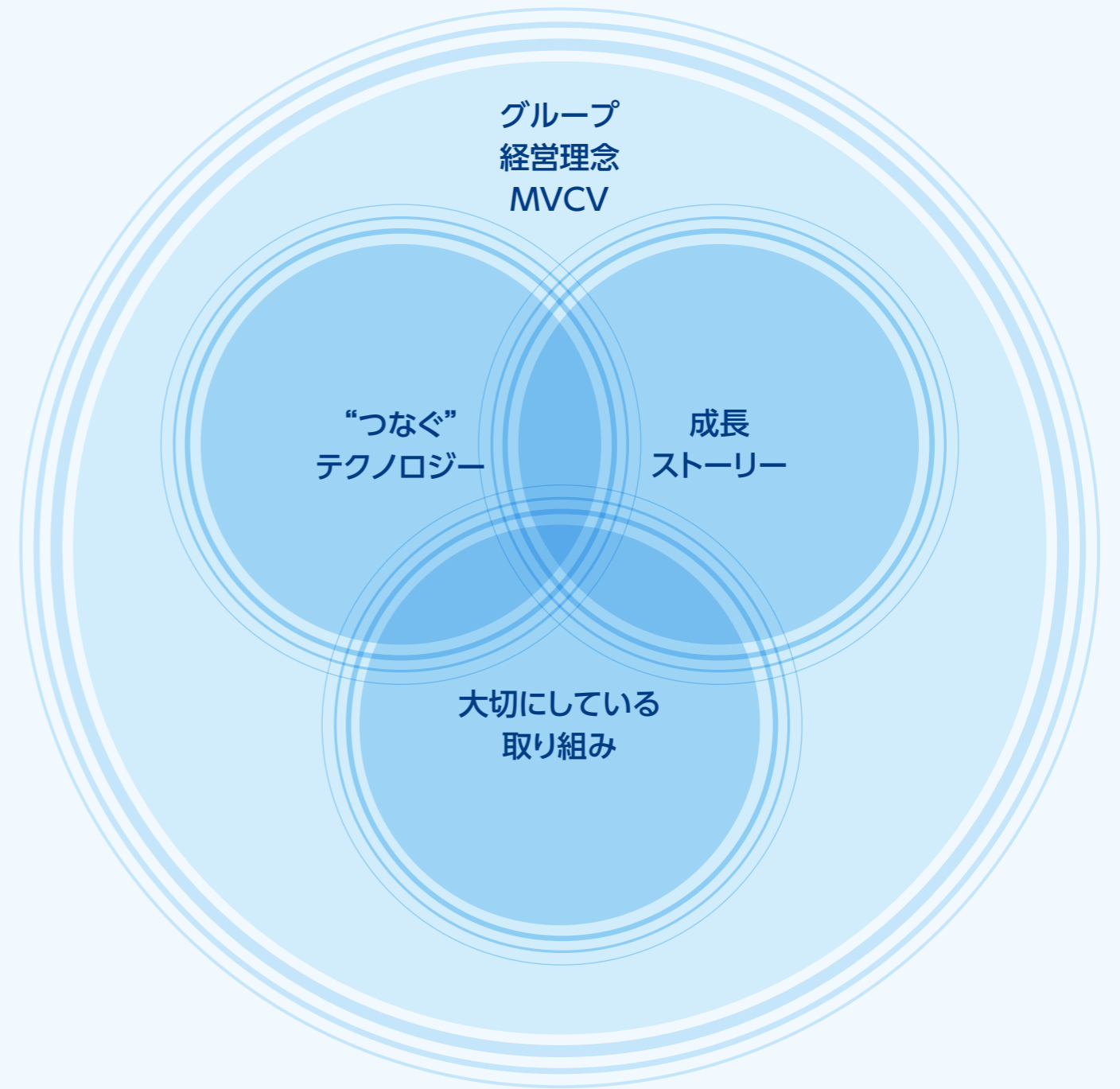
報告対象範囲等

対象期間:2017年4月1日~2018年3月31日
 (一部2018年4月以降の内容を含みます)
 報告範囲:(株)フジクラおよびフジクラグループ



Introduction

フジクラグループを深く理解いただく3つの問いと
 フジクラグループ経営理念MVCV



Q1

“つなぐ” テクノロジーとは?

創業以来培ってきた、 お客様との 深い信頼関係と技術力

フジクラグループは、1885年の創業以来、電線・ケーブルの研究、開発、製造で培ってきた“つなぐ”テクノロジーを通じて、エネルギー、情報通信、エレクトロニクス、自動車電装の4つの事業分野で高い信頼の製品、サービスをお客様にお届けすることで、世界中の国や地域の発展に寄与してきました。

“つなぐ”テクノロジーとは、フジクラグループにとって事業基盤そのものです。お客様へ技術や商品を提供するだけでなく、お客様とフジクラ、組織と組織、ひととひと、知識と知識、知恵と知恵を“つなぐ”ことで、お客様と深い信頼関係を築くことを目指しています。また、“つなぐ”テクノロジーを支えるコア技術基盤である「光」、「無線」、「電子部品」、「電線・ケーブル」の4領域にて、お客様のニーズに応える製品・サービスの提供を通じて顧客価値創造を果たしていきます。

フジクラグループは、“つなぐ”テクノロジーを通じてお客様と一体のチームとなり、お客様や社会が抱える課題解決を果たすことで、フジクラグループの持続的な発展とよりよい社会の実現に取り組んでいきます。

- フジクラグループの
価値創造モデル P.17
- 創業からの歩み P.19
- 研究開発 P.39

Q2

成長ストーリーを どう描いているか?

変化に適応する 中期経営計画と 2030年ビジョン、 CSV戦略

グローバル化の進展、低炭素・再生可能エネルギー社会への移行、新興国でのインフラの整備、Industry4.0、IoTによる情報通信量の増大、スマートカー・スマートホームの時代の到来など、私たちを取り巻く事業環境は、過去例を見ない速さで変化を続けています。このような大きな変化の中で、フジクラグループは5か年中期経営計画「2020中期経営計画」を策定し、お客様の求める価値を提供することで高収益企業に変化することを目指しています。新陳代謝の加速のために新規事業を創出し、新しい柱となる事業を立ち上げていきます。また、コーポレート・ガバナンスを確立し、環境、社会側面での評価を高め、事業継続性を確保するものにしていきたいと考えています。

同時に、グローバルコンパクトの署名企業として、国連SDGs達成に向けた優先課題を設定しています。SDGs達成への貢献と自らの事業成長も果たしていくための戦略としてCSVを進めています。当社グループはこれまでも社会課題解決のための事業活動を続けてきましたが、2017年を「フジクラグループCSV元年」とし、CSVを本格的に考えるスタートの年としました。

*CSV:Creating Shared Value(共通価値の創造)



- SDGs達成に向けた
CSV戦略 P.29
- 2020中期経営計画 P.35
- 2030年ビジョン P.38

Q3

大切にしている 取り組みとは？

創業から続く社会へ 貢献する想いと 地球環境への決意

フジクラグループは、“人にやさしい、地球環境にやさしい”企業グループを目指しています。

フジクラグループの社会貢献活動の原点として、1919年に創設した知的障害者施設「藤倉学園」の支援を続けています。創設者の社会貢献に対する志を現代に受け継ぎ、社員にもボランティア活動などに参加してもらうことで、誰も置き去りにしない社会づくりを目指すマインドの醸成にもつなげています。

また、グローバルに事業活動を行う企業グループが果たすべき社会的責任として、環境影響を最小化するための決意を「環境長期ビジョン2050」として2016年に制定しました。2050年に工場CO₂総排出量ゼロチャレンジなど、4つのチャレンジに取り組んでいます。

また、生物多様性確保の取り組みとして、2010年にバイオガーデン「フジクラ 木場千年の森」を創設しました。本社がある東京都江東区木場で地域の皆様と、豊かな自然が遥か一千年先の未来まで続いていくようにとの想いを込めています。

→ 藤倉学園 **P.49**

→ 「フジクラ 木場千年の森」 **P.51**

→ 環境長期ビジョン
2050 **P.33**

グループ経営理念MVCV

Mission ミッション

フジクラグループは
“つなぐ”テクノロジーを通じ
顧客の価値創造と社会に貢献する

私たちは
“つなぐ”テクノロジーの分野で
あくなき挑戦を続け
価値ある商品及びソリューションの提供により
顧客の信頼に応え社会に貢献します

Vision ビジョン

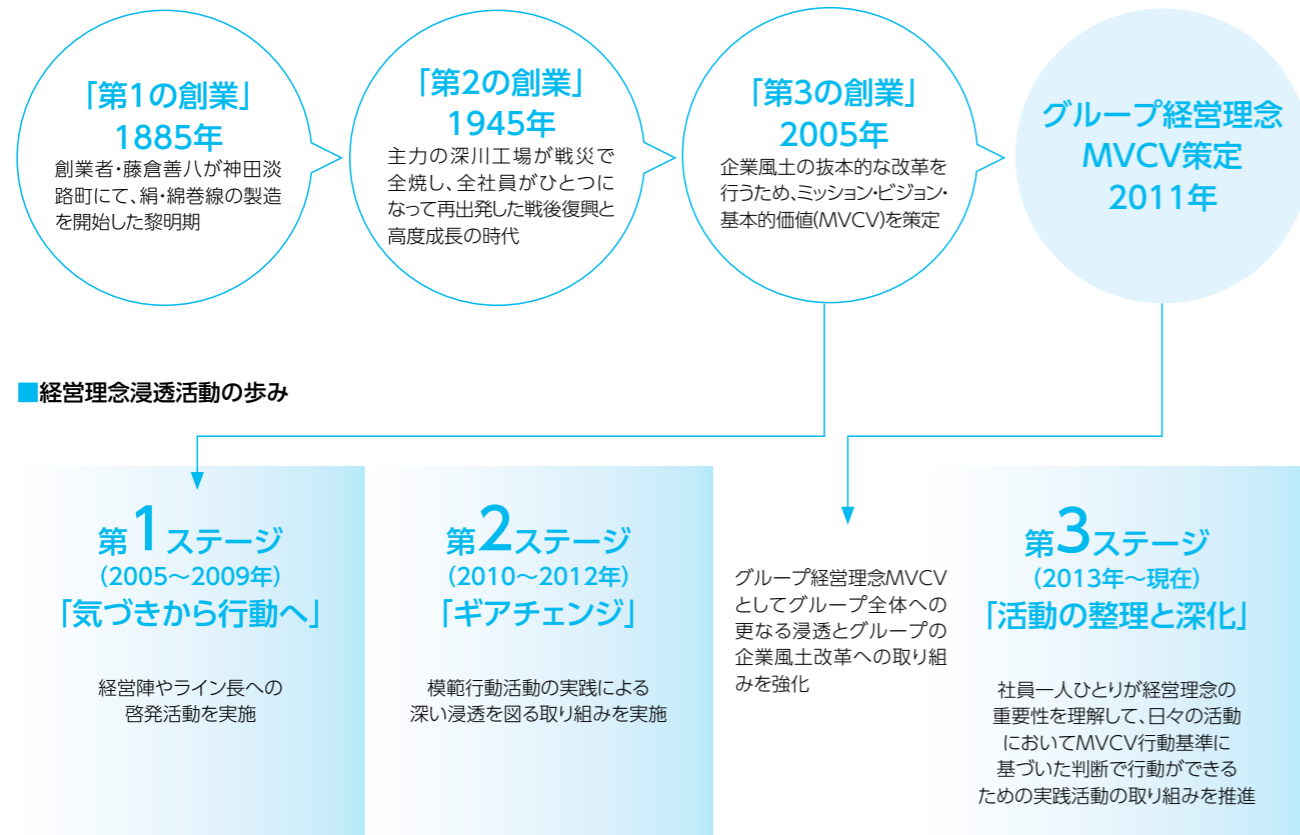
- “つなぐ”テクノロジーの分野で、顧客に最も信頼されるパートナーになる
- 先進的で有用性の高い商品とソリューションを継続的に開発し、“つなぐ”テクノロジーの分野でリーダーになる
- 「一人ひとりが主役」として行動し、世界で通用する有能な人財集団になる

Core Value 基本的価値

- カスタマーサティスファクション (Customer Satisfaction)
“それでお客様は満足ですか？”
- 変革 (Change)
“進歩への意欲を持って取り組んでいますか？”
- 共創 (Collaboration)
“それぞれが十分に能力を発揮するために協力し合っていますか？”

第3の創業とグループ経営理念MVCV

MVCVは2005年の制定以来、社員一人ひとりへの浸透活動を続けています。「第3の創業」のゴールイメージである「お客様から感謝され、社会からは高く評価され、社員は生き生きと仕事をしている」、結果として、高い収益率の会社・グループになる。」を達成するために、社員一人ひとりが主役としての自覚を持って行動することで、良い企業文化を全員参加で創り上げていきます。



全員参加のMVCV啓発活動

フジクラグループでは、「グループ経営理念MVCV」に基づいた行動が自然に実践できるように、毎年10月をMVCV強調月間と定め、全員参加で啓発を実施しています。

フジクラグループの成功体験の中には、MVCVに則った行動や価値判断が成功の要素となった事例が多くあり、2017年度

は、成功体験を経験した社員による当時の状況を語った教育用ビデオを視聴することにより、MVCVの理解をさらに深める活動を実施しました。また、MVCVの浸透をグローバルに展開するため、海外スタッフ向けのワークショップも開始しました。



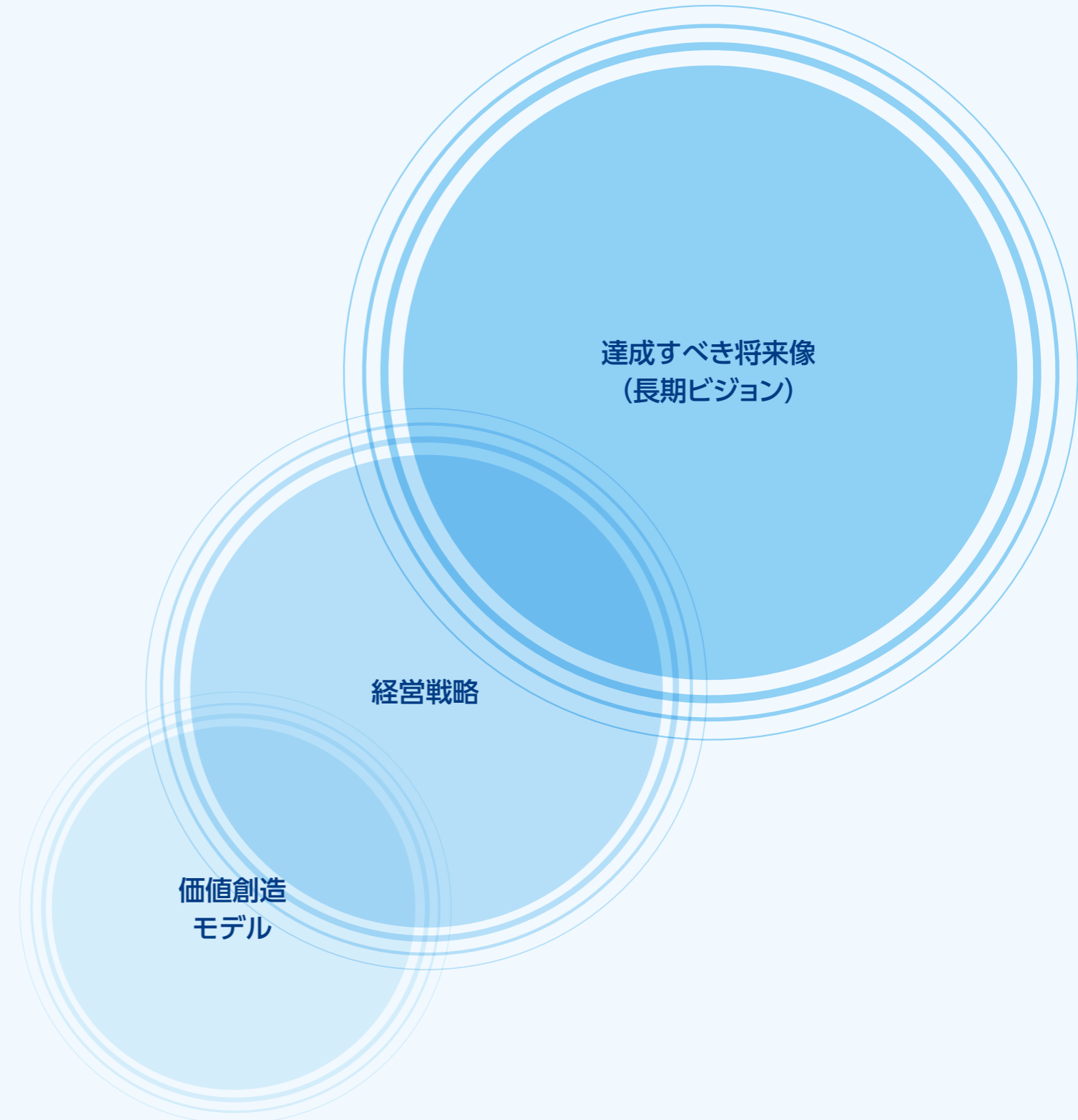
理念研修



MVCVグローバルワークショップ

Strategic Section

フジクラグループの成長ストーリー



トップメッセージ Top Message



私は、“つなぐ”テクノロジーを通じて
社会課題を解決し
国連SDGsの達成にも貢献することで、
社会にもお客様にも価値ある商品、
ソリューションを提供し続ける
企業グループを目指します。

代表取締役 取締役社長 伊藤 雅彦

常に時代の変化を先取りし、 お客様のニーズに応え続けること。 それがフジクラグループのビジネスモデルです。

フジクラは、1885年の創業から133年を迎えました。創業者である藤倉善八は、日本橋でアーク燈を見て、「これからは電気の時代が来る」と確信し、電線づくりを始めたのがフジクラの始まりです。その後、日本の社会インフラの整備という社会課題に応えるべく、常に時代の変化やニーズを的確に捉え、電線・ケーブルの研究、開発、製造で培ってきた“つなぐ”テクノロジーを通じて、エネルギー、情報通信、エレクトロニクス、自動車電装の4つの事業分野で信頼性の高い製品・サービスを提供することで、日本だけでなく、世界中の国や地域の発展に寄与してまいりました。変化のスピードがますます加速している現代においても、フジクラには変化に適応できる組織風土があり、これからも社会に貢献できると自信を持っております。

フジクラは創業以来、大切なビジネスパートナーであるお客様の潜在・顕在ニーズに応えていくことで、深い信頼の絆を築いてまいりました。お客様との深い信頼の絆は、今後も変わらない競争優位性であり、ビジネスモデルです。私は、2016年の社長就任以来、社員に繰り返し伝えていることがあります。それは、お客様と同じ目線で課題解決するために「お客様を訪問すること」の重要性です。私もそれを実行すべく、数多くの展示会に足を運んでおります。展示会に訪れるお客様が、実際にフジクラグループの製品に触れられ、社員の説明をお聞きになっている様子を見ることは、社員がお客様と同じ目線になれているのかを知る貴重な場です。常日頃から、「お客様と一体のチームになれているのか」と自問自答することが、お客様との深い信頼の絆をさらに深めることにつながると考えております。



展示会の現場視察

この考え方は、グループ経営理念MVCVにおいて、「カスタマーサティスファクション」"それでお客様は満足ですか?"として明記しております。私はこの経営理念を真に実行するために、経営理念に即した事業運営を先頭に立って進めてまいります。

私が数多く現場へ足を運ぶことで、 グループ一体経営を押し進めます。

グループ一体経営は、社員全員が目標を共有し、チームアプローチで全体最適かつ高効率経営の実現を目指すものです。私は就任以来、経営と現場の距離感を近づけるために、率先垂範で世界の各拠点へ行き、現場とのコミュニケーションを図っております。時には車座になって、じっくりと現場の最前線で働く社員の声を聞くことが、経営にとって大事であると考えており、これからも数多く現場へ足を運んでいきたいと考えております。

2017年度は、自動車電装カンパニーにおいて東欧の急激な採算悪化により、利益に影響する結果となりました。この状況を改善するために私も現場に赴き、Fujikura Automotive Europe社と自動車電装カンパニーの経営陣が一体のチームになるよう、指示をしました。フジクラグループの経営理念や価値観、自動車電装カンパニーにおける目標・目的が共有されていたのか真因分析を行う過程において、強固なチームと



率先垂範で世界の現場を訪問

なることで、今後の健全な事業の成長に弾みがつくと考えております。

また、グループ一体経営への施策として、国内外でグループ経営執行会議を行う際には必ずグループ討議を行っております。共通テーマのもと一人ひとりが意見をぶつけ合い、グループ全体で新たな価値創造のためには何が必要なのかを考える機会をつくることで、コミュニケーションの活性化とグループ一体経営の進化を図ってまいります。



国内事業所の現場視察



海外工場の現場視察

本業を通じてSDGsを達成することが、私の使命です。

フジクラは創業以来、本業を通じて、社会インフラの整備という社会課題に応え、日本だけでなく世界中の国や地域の発展に寄与してきたと自負しております。これまで社会に貢献してきた姿勢を貫きつつ、世界が約束したSDGsの達成にも貢献できると考え、具体的な活動を進めております。SDGsを介して世界の課題を考えることは、フジクラグループの持続的成長につながる大きな機会だと考えております。

私は、そのためにも、本業を通じて社会価値を向上し経済価値も得るCSV(共通価値の創造)が、今後の成長に重要だと考えております。2017年をCSV元年とし、日本におけるCSV推進の第一人者である一橋大学大学院の名和高司教授とのダイアログを行うとともに、主に製品による取り組みと、投資による取り組みを進めております。

製品による取り組みでは、グリーン関連製品など環境配慮型製品の開発や、データ容量の増大と都市インフラ整備の課題に応える製品など、お客様の期待に応えると同時に、社会課題の解決を通じた価値創造に取り組んでおります。

投資による取り組みでは、主に新興国での教育支援を進めております。フジクラグループでは、数年前から社会インフラ整備が進むミャンマーで現地法人を立ち上げ、現地の社会インフラ整備に取り組んでまいりました。



CSVダイアログの実施

さらに、2015年から次世代を担う理工系人材育成支援として「フジクラ奨学金制度」を始めるなど、今後もミャンマーの国づくりに貢献してまいります。

また、フジクラグループはものづくり企業であるため、環境に与える影響を把握し、その対応を図ることも社会的責任として求められていると考えており、中期経営計画とESGを連動させております。環境面では「環境長期ビジョン2050」を制定し、工場CO₂総排出量を2050年までにゼロを目指すなど、長期的かつ野心的な4つのチャレンジに取り組んでおります。社会面では、サプライチェーン上の人権リスクなど対応すべき課題が多くありますが、長期的な企業価値向上に資する活動を進めてまいります。

これらの取り組みの多くはSDGsと親和性が高いと考えており、昨今、機関投資家の皆様を中心とした株主からのESG投資への要請に応えるためにも、SDGsの達成に向けて取り組みを進めてまいります。



ミャンマーでの「フジクラ奨学金制度」の授与式

「社員は財産である」 これは私の変わらぬ信念です。

私は、「社員は財産」であると考えております。その根底は、創業者の実弟である中内春吉が私財を投じた知的障害者施設「藤倉学園」が創設された1919年に遡ります。当時、知的障害者を受け入れる施設がほぼない時代に、創業家が社会課題として貢献したのが藤倉学園の創設でした。社会に貢献するという想いは、創設以降も代々の先輩たちにより支援が継続されてきました。私は、藤倉学園を訪問し、先人の想いを再確認するとともに、人を大切にする事の重要性や、社会課題への取り組む姿勢を、改めて学んだ気がしました。私は先人の人を大切にするDNAを継承すべく、企業価値を高める活動として、特に本質安全・健康経営を重視しております。



大島藤倉学園の利用者とのひととき

本質安全について、私は社員に向けて、「安全は企業価値そのものである」と繰り返し伝えております。過去発生した事故を忘れず、毎年4月11日を「安全を誓う日」と定めております。本質安全の実現に向けて、「全ての安全リスクを許容可能なレベルまで低減し、重大災害を撲滅する」ことを主眼に、リスクアセスメントシステムの導入を進めてまいります。

健康経営では、社員の健康が重要な経営資源であ



「安全を誓う日」での講話

ると認識し、2014年1月1日に「フジクラグループ健康経営宣言」を発表しました。社員の健康意識と生産性を高めるため、歩数計の配付や各拠点に体組成計や血圧計の設置など、個人の健康データを集計・分析し、そのデータをもとに、各事業所にあったオリジナルの体操(フジクラストレッチ)を開発し、毎日役員を含む全社員が参加することで、仕事の生産性向上を図っております。また、個人に対しては、健康の専門サイトを開設し、個別に健康アドバイスなどを行っております。こうした活動が認められ、「健康経営銘柄2018」へ初選出され、マーケットからの評価もいただきました。

「社員は財産」。フジクラグループの雇用を預かる私としては、この信念は今後も変わらずに、経営を進めてまいります。



「健康経営銘柄2018」へ初選出

「高い収益力」と「強い新陳代謝力」を両輪に、 稼ぐ力の維持・強化を図ります。

フジクラグループは、2016年4月に“変わろう、そして未来につなげよう！ 20中期”をスローガンに、5ヵ年中期経営計画をスタートしました。「高い収益力」と「強い新陳代謝力」を両輪に、未来に続く磐石な会社基盤を築くことを目指しています。私がこの中期経営計画で最も重要視しているのは「収益率」であり、2020年度の売上高営業利益率7.0%以上を最重要指標としています。2018年度は中期経営計画の折り返し、20中期の成否を決める重要な年です。

■売上高営業利益率の目標



2017年度を振り返りますと、上期は自動車電装カンパニーが東欧拠点の労務問題によるコスト増により、急激に採算が悪化しましたが、世界的に旺盛な光ファイバ関連需要によるエネルギー・情報通信カンパニーと、お客様の2018年度モデルが順調に立ち上がったエレクトロニクスカンパニーでカバーし、前年度比増収増益となりました。稼ぐ力は維持強化できているものと思います。

各カンパニーの取り組みですが、エネルギー・情報通信カンパニーは、光ファイバ増産の確実な立ち上げ、そして、戦略製品であるSpider Web Ribbon®/ Wrapping Tube Cable®の拡販および製造強化を進めます。エネルギー事業は、2018年度中に事業構造改革の目処付けを行い、併せて、海外EPC事業を中心とした次の成長分野への対応を進め、利益率の向上を目指します。エレクトロニクスカンパニーは、品質を根幹に据

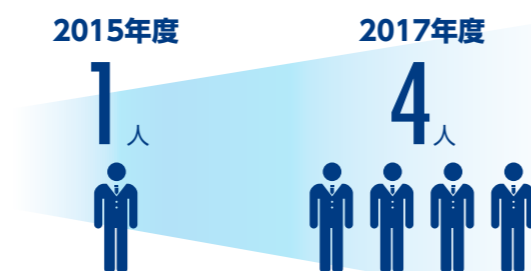
えた事業運営の徹底によりお客様の高い信頼に応え、また一層のコスト低減を図り、さらなる成長を目指します。自動車電装カンパニーは、急激な採算悪化への対策を着実に実施するとともに、事業基盤の点検と再構築を行います。

2020中期経営計画の進捗ですが、戦略顧客の深耕として、お客様が求められる省スペース、省資源、施工性に優れた工事により大量の情報データの通信を可能にする新製品として戦略製品Spider Web Ribbon®/ Wrapping Tube Cable®の技術により、光ファイバケーブルの超多心化が飛躍的に進展しました。お客様の信頼をこれまで以上に獲得しております。

新規事業創出として、フジクラ・ダイヤケーブルが工場やビル内に配線されたケーブルの、“診断サービス”の市場探索と商品開発に取り組んでいます。また、医療分野という新しい事業分野でも実を結び始めました。

オープンイノベーションは、新たな価値の創出および新陳代謝の加速を目的に、社外のベンチャー企業等とのコラボレーションによるイノベーション創出活動を展開しています。経営改革においては、経営の意思決定のスピードアップと監視・監督機能の強化を目的に、監査等委員会設置会社に移行いたしました。意思決定のスピードアップを図るために業務執行取締役への権限委譲を行い、監視・監督機能を強化するために社外取締

■社外取締役の増員による取締役会の監視・監督機能の強化



役を1名から4名へ増員いたしました。このような施策を通じて、取締役会のさらなる活性化を図っております。

また、社外取締役を過半とする指名諮問委員会と報酬諮問委員会を設置しガラス張りの経営を目指します。

2018年8月31日に公表いたしました、当社製品の一部における品質管理に関わる不適切事案につきましては、私が先頭に立ち、全容を解明し、徹底した再発防止策を策定するなど、二度とこのような事案が起こらないようにグループ全体のガバナンスのさらなる強化を図ってまいります。

私は、社会課題の解決とSDGsの達成を通じて、顧客価値創造型企業として「高い収益力」と「強い新陳代謝力」を両輪に、お客様に感謝され、社会からは高く評価される、将来性ある未来に続く企業グループとなるよう、グループ一丸となって事業運営に取り組んでまいります。これからのフジクラグループの成長に、どうぞご期待ください。



Mission

フジクラグループは“つなぐ”テクノロジー

を通じ顧客の価値創造と社会に貢献する

経営基盤

ビジネスモデル

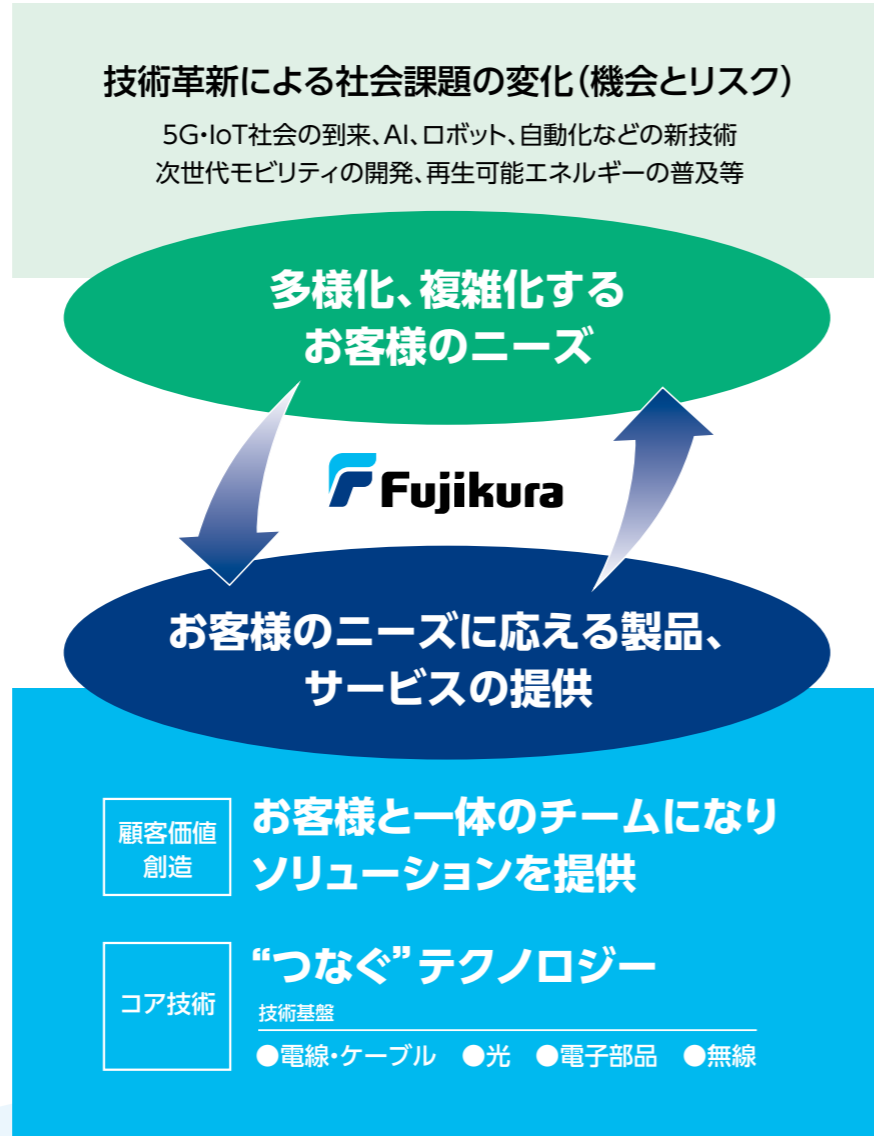
経営戦略

社会に
提供する価値

グループ
経営理念
MVCV

133年の
歴史
…→ P.19

経営資本
…→ P.25



創業以来培ってきた
持続的優位性

長期的な
信頼関係

技術力
研究開発
…→ P.39

変化への
適応力

顧客価値創造型企業として
「高い収益力」と「強い新陳代謝力」で
将来性ある、未来に続く会社へ!!

戦略顧客の 深耕	オープン イノベーション (2030年ビジョン)
新規事業創出の スピードアップ	経営改革、 事業構造改革

2020年度目標

売上高 9,000 億円	営業利益率 7.0 %以上
ROE 10 %以上	D/Eレシオ 0.66 倍

カンパニー別事業概況 …→ P.41
2020中期経営計画 …→ P.35

2030年ビジョン
快適で持続可能な
“みらい”社会
…→ P.38

高度情報化
社会への貢献

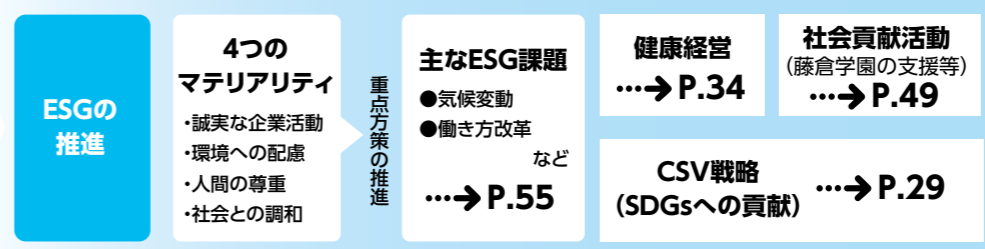
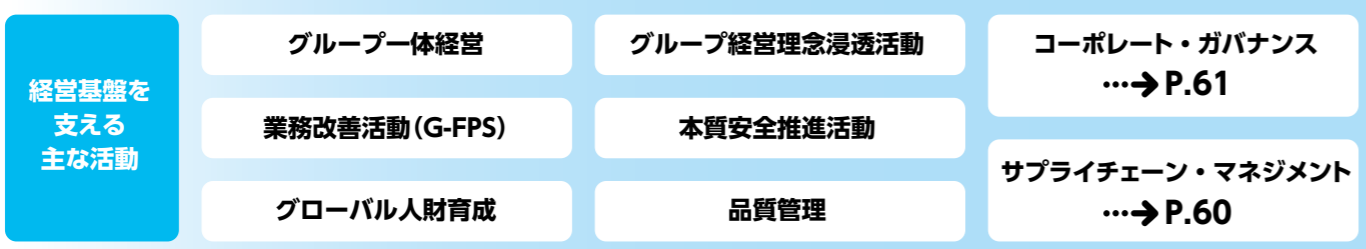
多様なエネルギーの
活用と効率的な
マネジメント

クオリティオブライフ
の向上

次世代モビリティ
社会への貢献

SDGs
達成への貢献
誰も置き去りに
しない社会
…→ P.29

環境
長期ビジョン2050
地球環境に
やさしい社会
…→ P.33



創業からの歩み

フジクラグループは、1885年の創業以来、電線・ケーブル製造で培った“つなぐ”テクノロジーで、くらしと社会の幅広い分野に製品をお届けしてきました。時代が求める新たな価値を創造し、お客様と世界、そして未来を“つなぐ”架け橋になる。それがフジクラグループの想いです。

フジクラグループの沿革と現代に引き継ぐ創業者の想い

根掛けから電線へ

フジクラは、1881年に藤倉善八が根掛け(日本髪に用いる女性用の髪飾)の製造から始まります。藤倉善八は、1883年に日本橋通りのアーチ燈を見て電気に興味を持ち、「電気」の時代が到来することを予感します。また、根掛けと電線被覆の編組技術が似ていることから電線事業に乗り出し、1885年にフジクラを創業しました。創業以来、先進の技術により信頼性の高い製品を世に出すことで、社会の発展に貢献してきました。



創業者 藤倉 善八

社会貢献活動の原点

創業者の実弟である中内春吉は、慈善の心が厚かった亡母の遺訓を胸に、事業で得た利益を社会に貢献すべきと考えていました。そこで、私財23万円(現在に換算すると20億円ほど)と伊豆大島にある40,000坪の土地と建物などを寄付します。それを社会事業家川田貞治郎氏に託して、伊豆大島に知的障害のある子どもたちの支援施設「藤倉学園」を1919年に創設しました。以降、フジクラの歴代の社長、役員および社員は学園の経営を支援し続け、フジクラグループの社会貢献活動の原点となっています。



創設者 中内 春吉
(創業者の実弟)

度重なる被災からの復活(2011年タイ王国における大洪水からの復興)

フジクラは、これまで幾多の自然災害に見舞われながらも、そのたび復活を果たしてきました。困難に屈しないレジリエンスの高さはフジクラの特徴のひとつであり、象徴的なものが2011年のタイ王国における大洪水です。

フジクラグループの製造拠点も壊滅的な打撃を受けましたが、復旧・復興への強い意志のもとグループ社員一丸のチームとなり、2016年に洪水復興宣言に至りました。また、以前からのお客様からビジネスチャンスをいただくなど、お客様との深い信頼関係があっこそ復興を成し遂げることができました。



浸水したタイ王国の工場

1885 第1の創業

創業黎明期

- 1885年(明18) 藤倉善八が神田淡路町で創業、絹・綿巻線製造開始
- 1893年(明26) 日本で初めてゴム被覆線の製造開始
- 1901年(明34) 藤倉電線護謄合名会社(個人企業から会社へ改組)

基礎確立の時代

- 1910年(明43) 藤倉電線株式会社に改組
- 1919年(大8) 知的障害者施設「藤倉学園」創設(大島)
- 1923年(大12) 深川に本社工場移転、関東大震災で全焼(翌年復旧)
- 1931年(昭6) 飛行機用電線「藤光線」シェア独占(日本一)

震災復興・技術の時代

- 1935年(昭10) 藤倉型高周波同軸ケーブルの特許取得
- 1941年(昭16) アルミ電線製造開始
- 1943年(昭18) 藤倉型100kW同軸ケーブル製造開始



米国から輸入した編組機
再建した深川工場



1945 第2の創業

戦後復興・高度成長の時代

- 1945年(昭20) 東京大空襲で深川工場全壊(同年復興)
- 1949年(昭24) NHKに日本最初の24心TVカメラケーブル納入
- 1954年(昭29) 沼津工場操業
- 1957年(昭32) ワイヤハーネス製造開始
- 1958年(昭33) 多摩藤倉学園設立
- 1965年(昭40) 佐倉工場操業、ダイスタンプ式プリント配線板生産開始
- 1970年(昭45) 鈴鹿工場操業
- 1974年(昭49) CVD法による光ファイバ母材製造の検討開始
- 1979年(昭54) 電子機器用FPC(フレキシブルプリント基板)製造開始

激動と試練の時代

- 1980年(昭55) シングルモード用光融着接続機開発
- 1981年(昭56) OPGW(光ファイバ複合架空地線)開発(日本初)
- 1984年(昭59) タイに現地法人Fujikura (Thailand) Ltd.を設立
- 1985年(昭60) 創業100周年、コア直視型光融着接続機開発(世界初)



VAD法による光母材製造

2005 第3の創業

- 1987年(昭62) 酸化物超電導線材化成功、光エレクトロニクス研究所完成
- 1988年(昭63) 多心光ファイバ融着接続機開発(世界初)、イギリスに現地法人Fujikura Europe Ltd.を設立

グローバル化と新技術の時代

- 1992年(平4) 商号を藤倉電線からフジクラに変更
- 1993年(平5) 東京R&Dセンター完成
- 2000年(平12) ベトナムに光部品製造会社Fujikura Fiber Optics Vietnam Ltd.を設立
- 2001年(平13) FTTH光製品商品化
- 2005年(平17) 創業120周年、新経営理念「MVCV」導入、アメリカに情報通信および自動車用電装品の製造販売会社America Fujikura Ltd.を設立

- 2007年(平19) イットリウム系酸化物超電導線材で世界記録更新
- 2008年(平20) スペインのワイヤハーネス製造会社を子会社化し、Fujikura Automotive Europe S.A.U.へ社名変更
- 2009年(平21) ファイバレーザ製造開始
- 2010年(平22) タイ王国のグループ7社を統合しFujikura Electronics (Thailand)Ltd.(FETL)社設立、深川工場跡地再開発「深川ギャザリア」完成、バイオガーデン「フジクラ 木場千年の森」設置
- 2011年(平23) 東日本大震災、タイ王国大洪水被災
- 2013年(平25) 機構改革により社内カンパニー制を導入
- 2015年(平27) VAD法がIEEEマイルストーンに認定
- 2016年(平28) タイ王国大洪水からの完全復興宣言
- 2017年(平29) 監査等委員会設置会社に移行



深川ギャザリアの再開発



FETL社の設立



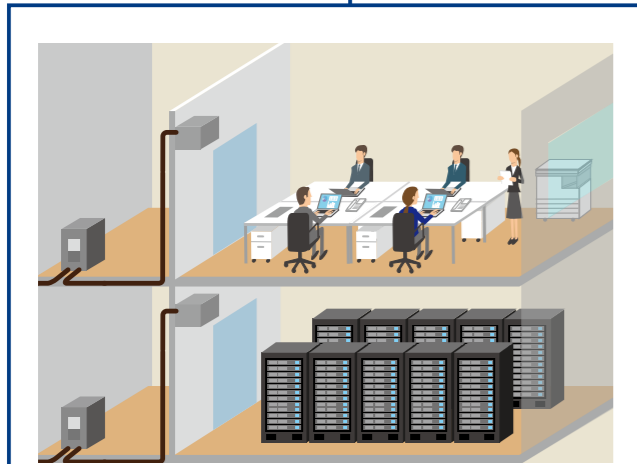
バイオガーデン「フジクラ 木場千年の森」創設



本社外観

私たちの生活をさまざまなシーンで支える

フジクラグループの“つなぐ”テクノロジー



オフィス内・データセンター・工場



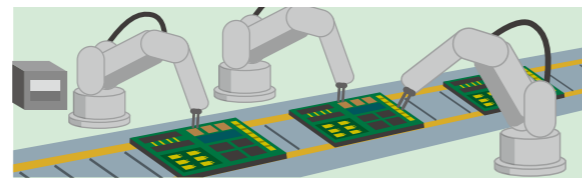
SWR®/WTC®
5GやIoTの進展によるネットワークの更なる大容量化を容易に構築するための6,912心光ケーブル。独自の光ファイバリボンであるSWR (Spider Web Ribbon)とWTC (Wrapping Tube Cable)構造により細径、軽量、超多心を実現。



光成端架・成端箱
データセンター内に布設される膨大な量のケーブルの成端、接続部をコンパクトに収容し、高密度化、省スペース化を実現しつつ、作業効率を高めた接続ボックス。



多心光ファイバ融着接続機
光ネットワーク構築に不可欠な光ファイバ融着接続機。セミオート化で操作性を格段に向上。



工場



kW級高出力ファイバレーザ
主に金属の切断、溶接加工に用いられる高出力ファイバレーザに於いて、世界トップクラスの信頼性・耐反射特性を実現し、取扱い性能を著しく向上。



産業用ロボット向けコネクタ
自動車や電子機器を製造する工場などの産業用ロボット等に使用され、粉塵が多い場所など産業用機械の設置されるさまざまな環境に対応可能なコネクタ。

人々の豊かな生活を支える



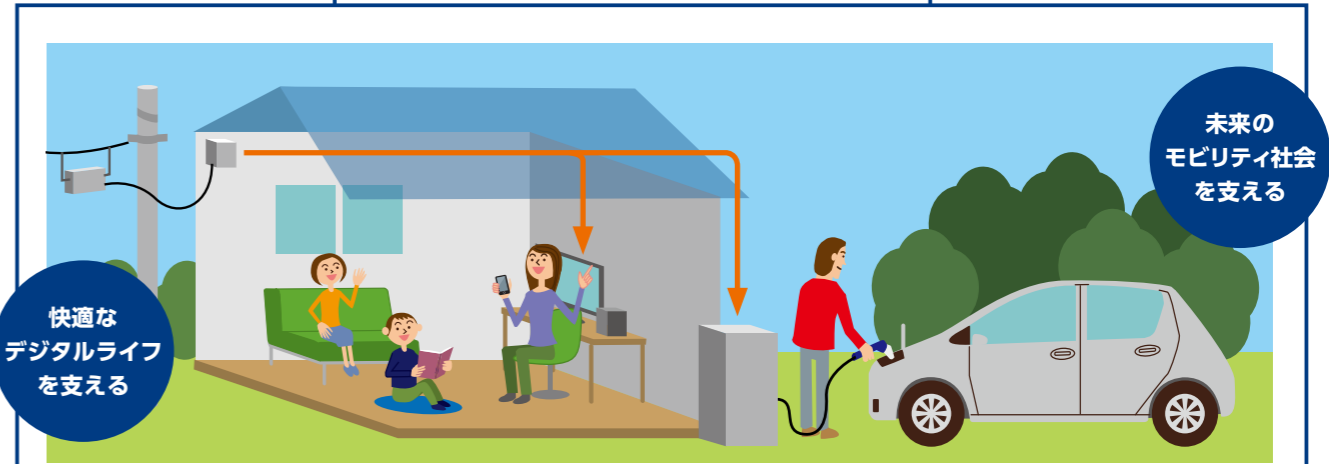
病院



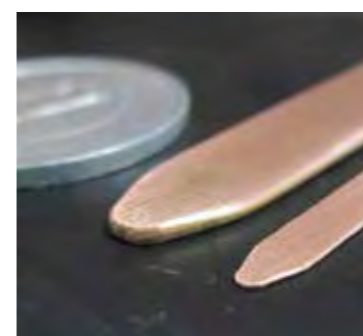
医療デバイス用CMOSカメラモジュール「PICORAMEDIC®」
φ1.0mm以下の極細径カメラモジュールは、体内のあらゆる場所を撮影可能にする事で患者さんのQOL (quality of life クオリティオブライフ) 向上と医療技術の進歩に貢献。



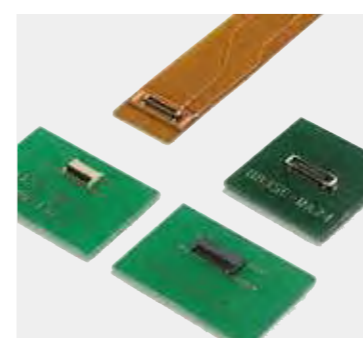
デジタル出力微圧センサ
数kPaクラスの微圧領域の圧力検知が必要とされる呼吸器関係の各種医療機器などに使用される高精度な微小圧力検知(10kPa以下)と高耐圧性能の両立を実現したセンサ。



快適なデジタルライフを支える



スマートフォン用超薄型ヒートパイプ
スマートフォン等の小型携帯機器のCPU冷却用に使用され、高い熱性能を維持しながら、最小厚さ0.3mmまでの薄型化を実現したヒートパイプ。



FPC接続用コネクタ
スマートフォン等の小型化に対応し開発した、小型軽量化・薄型化を実現した業界最小クラスのコネクタ。



自動車電装
自動車内で電力と信号を伝達するワイヤハーネスやジョイント・ボックス、EVやPHVのバッテリーから駆動系に電力を供給する高電圧ケーブル、自動車の軽量化に寄与するアルミ電線などでクルマの未来に貢献。



急速充電コネクタ
EVやPHEVの普及に不可欠な急速充電機の設定が進む中、片手で着脱可能なワンプッシュ式の充電コネクタ。

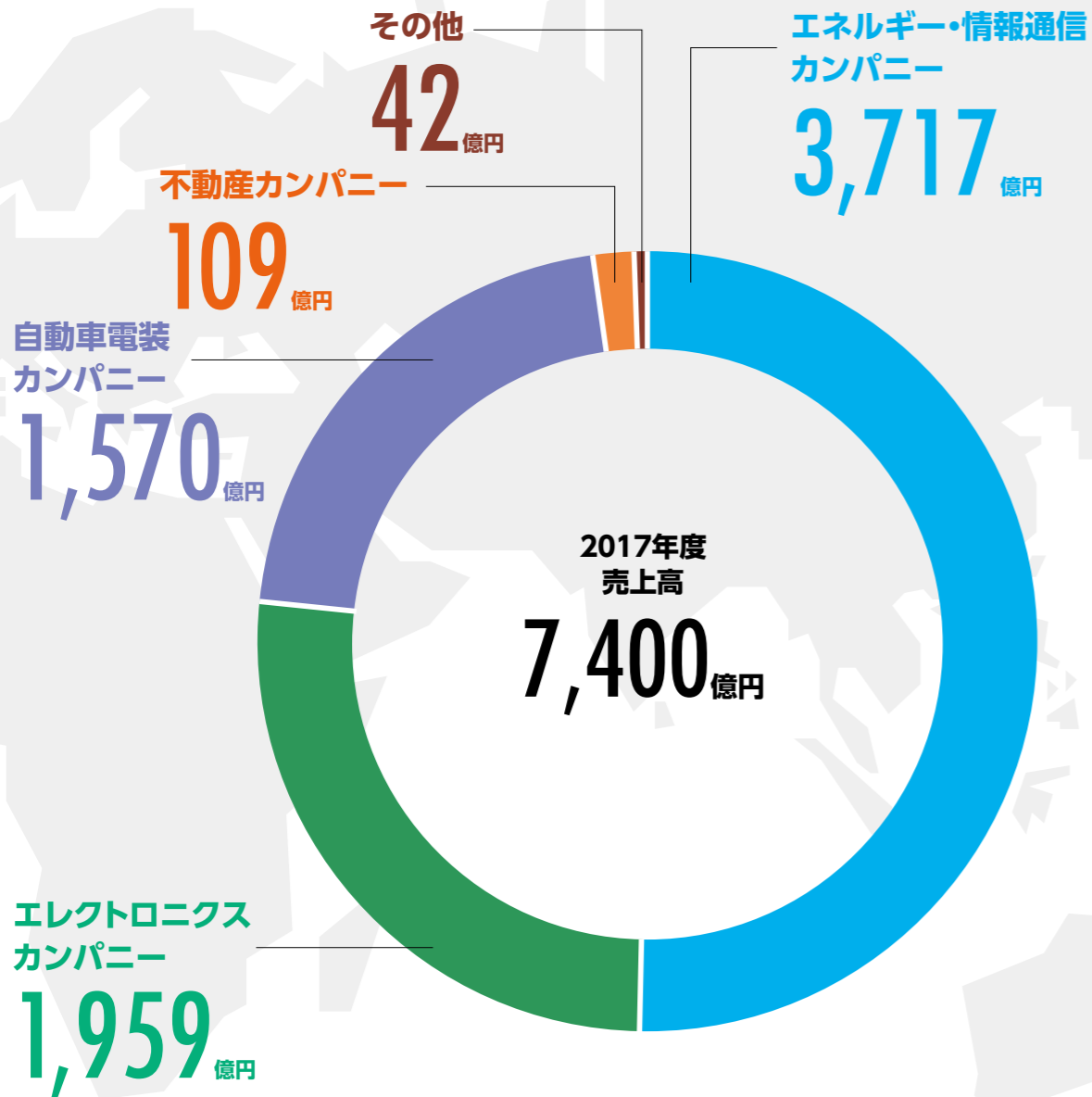


DRL (Daytime Running Light) 用FPC
昼間走行灯(DRL)に、LEDを実装したフレキシブル性のあるFPCを採用することで、自動車の自由なデザインが可能。

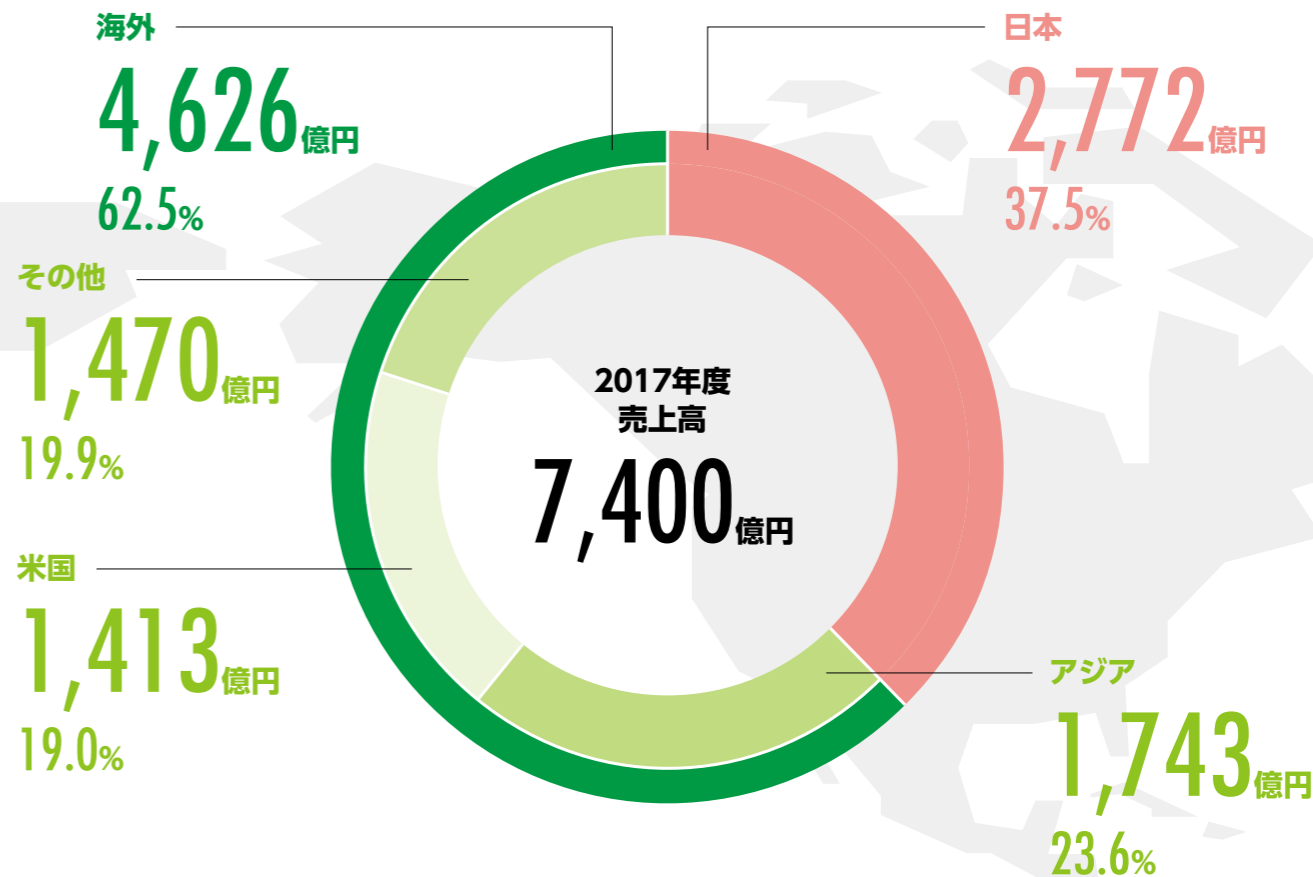
未来のモビリティ社会を支える

フジクラグループの概要

■カンパニー別売上高



■地域別売上高およびその割合

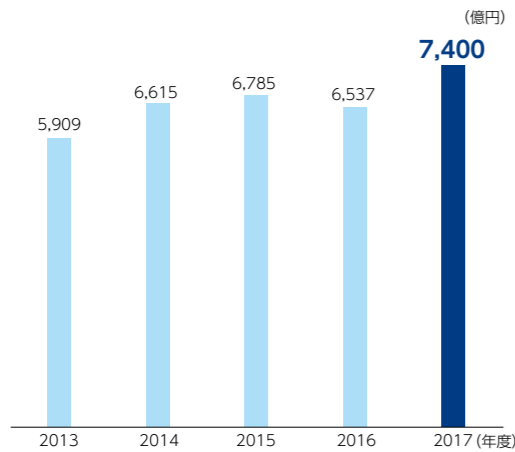


■主要指標

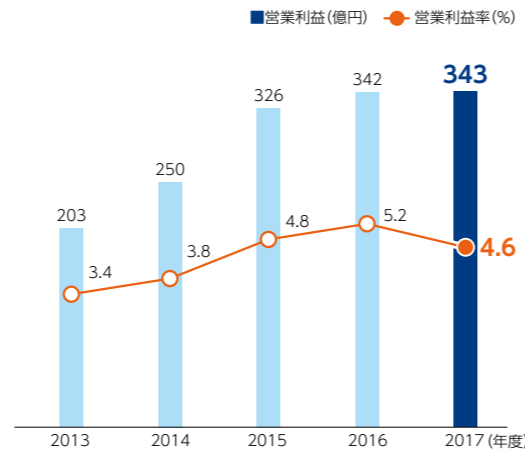


フジクラグループの経営資本

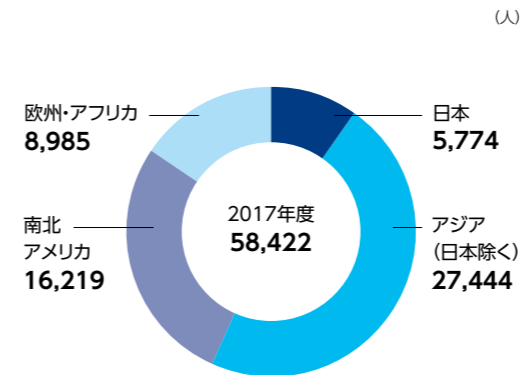
財務資本 売上高



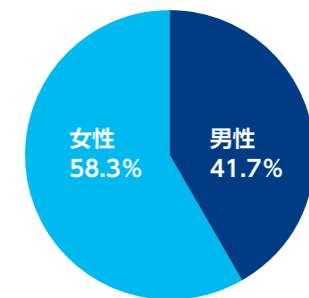
財務資本 営業利益・営業利益率



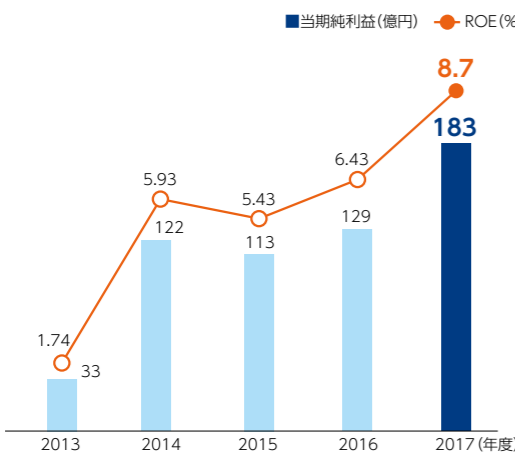
人的資本 グループ社員数・地域別社員数



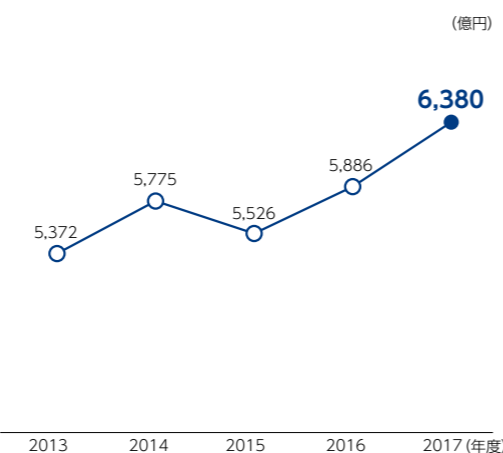
人的資本 グループ社員比率



財務資本 親会社株主に帰属する当期純利益・ROE



製造資本 総資産



人的資本 社員一人当たり研修費用



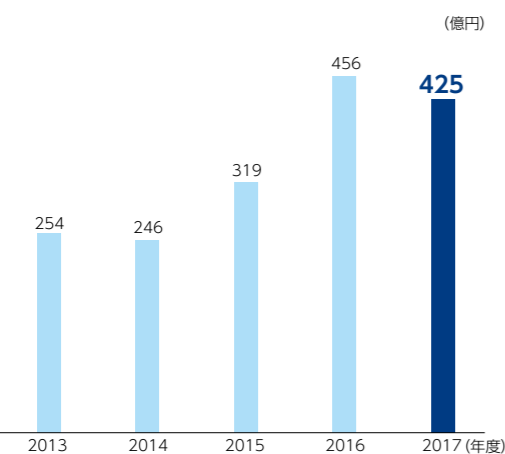
*金額は参考、単金：経団連アンケート4千円/時間

社会・関係資本 地域コミュニティ投資

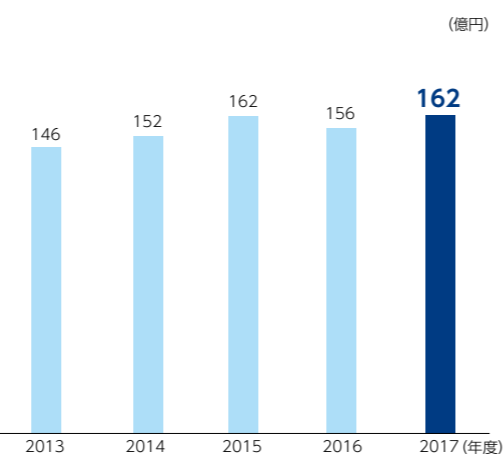


*深川ギャザリアへの投資額

製造資本 設備投資



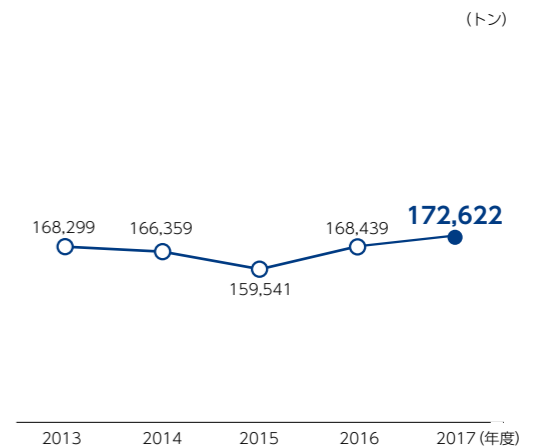
知的資本 研究開発費



自然資本 グループ国内拠点廃棄物埋立率



自然資本 GHG排出量 (国内の環境管理グループ)



フジクラグループが目指すサステナビリティ



常務取締役
コーポレートスタッフ部門担当
滝沢 功

フジクラグループは、事業を展開するグローバル社会の持続可能性に働きかける創造的な事業活動を通じて、“サステナビリティ社会の実現”と“グループの継続的な成長”の両方を実現する価値創造型企業への飛躍を目指しています。

これに基づき、2020年をゴールとする中期経営計画の基本

責任あるコーポレート・ガバナンス体制の確立

持続可能な社会の実現に向けて、企業は自社の事業活動により影響を受けるステークホルダーの利害を尊重し、社会の一員として責任ある姿勢を示すことが求められています。この観点から、政府や証券取引所は公正な事業活動を監視する環境の整備を進め、企業の非財務的な価値を評価するESG投資が活発化しています。

こうした社会の要請に応え、フジクラは2017年に監査等

方針に、“コーポレート・ガバナンスを確立し、併せて環境・社会側面での貢献に取り組み、企業価値の増大を図る”ことを掲げ、ステークホルダーの信頼に応えて社会と価値を共創する具体的な活動を展開しています。

委員会設置会社へと移行し、コーポレート・ガバナンスの強化を図りました。事業を運営する各カンパニーが迅速な意思決定を行えるように業務執行取締役の権限を委譲して責任を明確化し、社外取締役を過半数とする指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置して監査機能を強化。経営と監督の機能を区分した統治体制のもとで、ステークホルダーへの説明責任を果たす透明性の高い事業活動を継続しています。

国連グローバルコンパクトへの積極的な参画

フジクラは、2013年に国連グローバルコンパクトに署名し、SDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標)に対して優先的にコミットする6つの目標を規定して、国際社会の課題に対して創造的なリーダーシップを発揮しています。

この優先目標に基づき、30年後の未来を見据えた「フジクラグループ環境長期ビジョン2050」を制定し、環境負荷の低減に向けた4つのチャレンジ(工場CO₂総排出量ゼロ、工場用水・排水の最小化、人と自然の共生、資源の循環と有効活用)を進めています。工場や本社近隣の緑地には希少植物を移植して豊かな自然を未来に語り継ぐ「フジクラ 木場千年の森」を設置し、生物多様性の尊重や地域社会との連携を図る場としています。

サプライチェーンにおいても、製品のライフサイクルを見据えて省資源・省エネルギー性能に優れた環境配慮型製品の

開発に努め、生産・流通・廃棄のプロセスまで一貫した環境性能アセスメントを実施しています。



“つなぐ”テクノロジーを通じた共通価値の創造

フジクラは、創業者の実弟・中内春吉氏が知的障害者の支援施設「藤倉学園」を設立し、一世紀にわたる支援を続けてきました。電力・通信インフラを提供する開発途上国においても、奨学金制度や技術者研修を通じて、国の発展を支える基盤づくりに貢献しています。

こうしたCSR活動を通じてフジクラグループは、社会に責任を果たす企業として一定の評価を確立していますが、国際社会が抱える複雑な課題に最適解を見いだすためには、企業が本来の事業活動を通じてグローバル社会の持続可能性を追求し、CSV(Creating Shared Value/共通価値の創造)を通じて自社の収益増大による成長と社会課題の解決を同期させていくことが求められます。

フジクラグループでは、ステークホルダーからの要請に応えるだけでなく、事業活動と関連させて“サステナビリティ社会の実現”へと積極的に働きかけるべく、2017年を「フジクラグループCSV元年」と位置づけ、オープンイノベーションを通じて新たな価値を模索し創出する取り組みも推進しています。社内外のステークホルダーとの対話を重ねる中で、従来のプロダクトアウト型のエンジニア集団から、サステナビリティ社会のプラットフォームとして機能する価値創造型企業への進化が加速しています。

快適で持続可能な“みらい”社会に向けて、フジクラグループは“つなぐ”ソリューションの提供を通じて、サステナビリティ社会と共有する価値の創造に努めていきます。



SDGs達成に向けたCSV戦略

SDGs達成に向けたフジクラグループの取り組み

SDGsとは

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193カ国が2030年までの15年間で達成するために掲げた目標です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。フジクラグループでは、SDGs Compassを活用してSDGs達成に向けた取り組みを進めています。



優先課題の特定

優先課題の特定は下記3つの手順で行い、6項目を選択(P28参照)しました。

- ①フジクラグループCSR基本方針で定めた「4つの重点分野」および「CSR重点方策2020」とSDGsで定める17の目標との関係を整理。
- ②マテリアリティ・マトリックス分析を使い、SDGsの各目標を「ステークホルダーの関心事」および「自社事業への影響度」の2軸で検討。
- ③サプライチェーンSDGsマッピング分析

事業活動を通じた社会課題の解決(CSV)

自社の利益成長とともにSDGs達成に貢献するための戦略として、CSVを進めています。CSVとは企業が本業を通じて、社会価値を向上(社会課題解決)し、経済価値(利益)も得る活動のことと定義されています。フジクラグループはこれまでも社会課題解決のための事業活動を続けてきましたが、2017年を「フジクラグループCSV元年」とし、CSVを本格的に考えるスタートの年としました。

バリューチェーン上で関わるSDGsのマッピングとCSV戦略



SDGsの啓発活動

社内イントラネットでの情報発信、社内ダイアログの実施、SDGsバッジの配布

SDGsの社内啓発活動では、主に社内イントラネットでの継続的な情報発信と社内ダイアログを行っています。

情報発信は、社内イントラネットで発信していたCSRブログを活用し、掲載する全ての記事に関連するSDGsのアイコンをつけることで、日々の活動がSDGsの達成にどう貢献しているのかを社員に認識してもらう機会をつくっています。

また、社内ダイアログはこれまでに複数回実施しました。初回は社外有識者を招き、経営トップを含むミドル層に向けて、CSV

の考え方やフジクラグループがCSVにどう取り組むべきかをテーマに、ダイアログを行いました。他には新入社員を対象に、グループごとにSDGsの目標を1つ選択し、その目標達成に一人ひとりがどのような貢献ができるのかを考えるワークショップも行いました。

また、取締役および執行役員全員にSDGsバッジを配布し、担当職制においてSDGsで定める17の目標についてどのような貢献ができるのか検討を進めています。



新入社員向けSDGs研修



SDGsバッジの配布

CSVに関するダイアログの実施

フジクラグループは2017年を「フジクラグループCSV元年」と位置づけ、CSVという考えのもと、さらなる社会課題解決のための事業活動を改めて本格的に考えるスタートの年としました。CSV元年の取り組みの第一歩として、役員をはじめ社員に対してCSVの理解を図るために、2017年8月31日にCSVの専門家である一橋大学大学院 名和高司教授をお招きし、講演会とダイアログを開催しました。

名和教授からは、日本固有の文化や価値観を活かしてCSVを目指したり、事業を通じて社会的価値と経済的価値をいかに両立させるかがポイントであると教えていただきました。講演会の後には、現場のミドル層を中心に約35名を5グループに分け、フジクラグループのCSVについて考えるダイアログを実施し、将来起こりうる社会の変化に備えて、フジクラグループがどのようなCSVを行うべきか議論を行いました。



一橋大学大学院 名和高司教授による講演



フジクラグループのCSVを考えるダイアログ

CSV戦略の推進(新規の取り組み)

デジタルグリッド社への出資 —ブロックチェーン技術を活用した 再生可能エネルギーの促進—

フジクラは、オープンイノベーションの一環として、ブロックチェーン技術*を活用した電力および環境価値の直接取引プラットフォーム事業等を行うデジタルグリッド株式会社(以下デジタルグリッド)に出資しました。

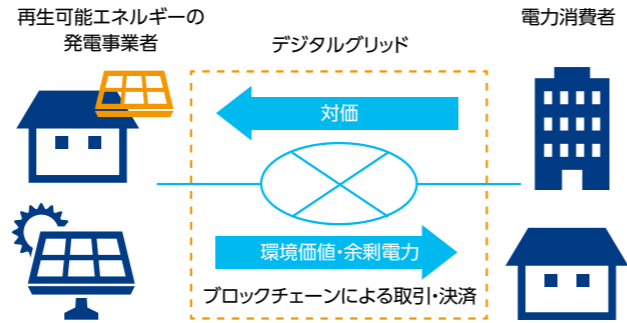
現在の電力供給システムは、再生可能エネルギー等の普及により、従来の大規模集約型から自立分散型のシステムに変化してきています。将来的には、再生可能エネルギー発電事業者と電力消費者との間で、電力が直接取引されるようになる可能性があります。

デジタルグリッドは、2017年10月設立のスタートアップ企業であり、環境省の実証事業である「平成30年度ブロックチェーン技術を活用した再生CO₂削減価値創出モデル事業」の実施主体として、再生可能エネルギーの環境価値を発電事業者と電力消費者で直接取引するプラットフォームを提供していきま



す。今後は、各世帯に設置された太陽光発電の余剰電力を世帯間で直接取引するプラットフォームを提供することも予定しています。

* IoTを含む非常に幅広い分野への応用が期待されている、中央管理者を必要としない分散型のコンピューターネットワークシステムに関する技術のこと。



鹿児島県肝付町にて高齢者見守りIoT実験に成功 —フジクラら4社、GPS搭載シューズと 見守りシステムを共同開発し実験—

フジクラ、株式会社NTTドコモ殿と共同で39Meister事業を運営する株式会社ハタプロ殿39Meisterチーム、株式会社キャラバン殿、株式会社LiveRidge殿は、位置情報を取得する専用IoTシューズおよびその位置検知を行う見守りシステムを開発しました。鹿児島県肝付町協力のもと、実際の利用シーンを想定した検索実証実験を実施し、その有用性を確認しました。

検索実験プロジェクトについて

フジクラは、2013年よりMVNOサービス「Oxymo(オキシモ)」を事業社様向けに提供しています。GPSによる位置情報との連携により、高齢者の見守りに活用できると期待を寄せていましたが、GPSデバイスを携帯していないと位置検知はできず、自然な形で外出時に携帯していただくことが課題でした。今回、「靴」に着目し、行方不明になった方を探す側の立場にたって捜



索オペレーションの課題も検討し解決することにより、これまでの製品と比べより早期発見ができるシステムを構築すべく本プロジェクトを立ち上げました。それぞれの分野で強みを持つパートナー企業と自治体が連携し、実際のフィールドでその有用性を立証しました。



GPSモジュールを内蔵した靴



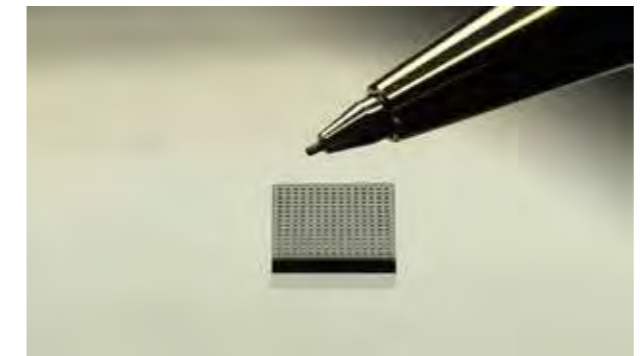
見守りシステムの画面イメージ (提供: (株)Live Ridge殿)

継続的なCSV活動

環境配慮型製品

フジクラグループは、企画・開発・設計の段階で、製品の環境配慮性をライフサイクルにおいて評価する製品環境アセスメントを実施し、毎年60件以上の環境配慮型製品を登録しています。2017年度には合計で536件となり、今後も環境性能の向上に取り組んでいきます。

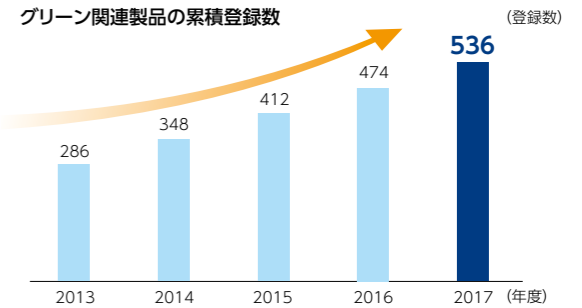
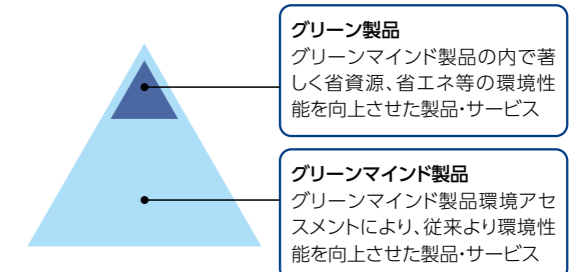
薄型部品内蔵基板(WABE Package®)



用途: ウェアラブル機器や医療・ヘルスケア機器に用いられるICチップを内蔵した薄型部品内蔵基板(超小型電子モジュール)
概要: 基板の薄型化+部品内蔵により、従来製品よりも小型化となり、使用材料を削減
一括積層工法の採用やめっきレス化、さらには部品内蔵によるはんだ実装工程の削減により、製造時のエネルギー消費を削減



環境配慮型製品(グリーン関連製品)



途上国への国づくり支援

ミャンマーの理工系大学4校に奨学金授与

フジクラグループでは、2013年にミャンマー事務所を設立後、2015年にBarons Machinery & Engineering Co., Ltdとの合併会社であるBarons & Fujikura EPC Co., Ltd.(以下、BFE)を設立し、ミャンマーの電力・通信インフラの発達に貢献してきました。

以来、BFEのメイン事業である送変電網・配電網・通信網整備のみならず、2015年にはミャンマーの首都ネピドーにて、ミャンマーの配電工事エンジニア計160名に安全で先進的な配電工事方法の研修実施などを通して、ミャンマーの国づくりに貢献しています。

このたび、ミャンマーの国づくり支援をより強化する目的で、2015年からミャンマー理工系大学および関係省庁の訪問、



ニーズの調査を経て「フジクラ奨学金制度」の設立および「フジクラ技報」の寄贈に至りました。

今後も、フジクラグループはミャンマーの国づくりに貢献できるよう、最大限の努力をしていきます。



ミャンマーでの「フジクラ奨学金制度」の授与式

ESG戦略

気候変動対応への決意 「環境長期ビジョン2050」

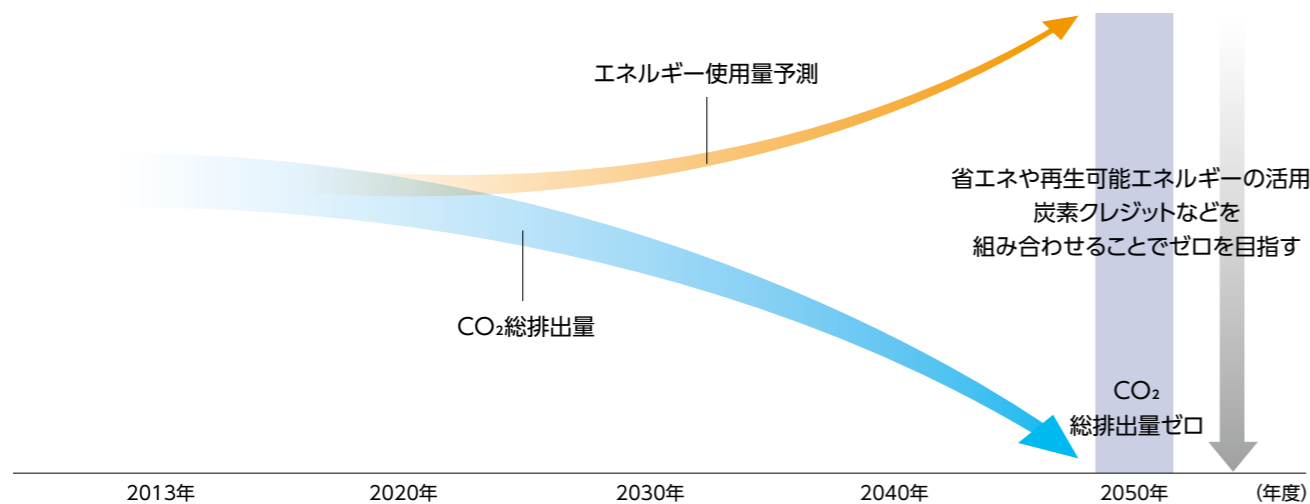


2050年へ向けた4つのチャレンジ

グローバルに事業を進めるフジクラグループは、2050年の未来を見据え、「環境長期ビジョン2050」を2016年に制定しました。2050年に工場CO₂総排出量ゼロチャレンジなど、環境負荷の最少化に向けた「4つのチャレンジ」に取り組んでいます。

<p>チャレンジ1</p> <p>工場CO₂総排出量 「2050年ゼロチャレンジ」</p> <p>2017年度の取り組み 本社およびフジクラ・ダイヤケーブル福井工場で再生可能エネルギーの導入</p>	<p>チャレンジ2</p> <p>工場の水使用の 最小化と排水管理</p> <p>2017年度の取り組み 水使用量の継続的改善に向けた施策の検討と実施</p>
<p>チャレンジ3</p> <p>工場の人と 自然の共生</p> <p>2017年度の取り組み 「フジクラ 木場千年の森」が東京都江戸のみどり登録緑地(優良緑地)に認定</p>	<p>チャレンジ4</p> <p>資源の有効活用と 資源循環</p> <p>2017年度の取り組み 廃棄物のゼロエミッションの継続達成(国内グループ)</p>

■2050年CO₂総排出量ゼロチャレンジへ向けたシナリオイメージ



人財の価値を高める 「健康経営」



社員の健康は重要な経営資源

フジクラグループは「企業の競争力はそこで働く社員の良好な健康状態が基盤となる」という考えのもと、社会に必要とされる企業でありつづけるためには社員の「健康」が重要な経営資源

であると認識しています。「社員が生き生きと働いている企業グループ」を目指し、心身の活性化および健康増進の取り組みを進めています。

取り組みの経緯

- 2011年 健康経営の専門組織「ヘルスケア・ソリューショングループ」を新設
- 2013年 個人の健康データをもとに社員個人の健康活動を効果的に支援する「フジクラグループ健康増進プログラム」を独自開発
- 2014年 「フジクラグループ健康経営宣言」を発表
- 2015年 事業所勤務者へ自転車通勤の奨励
- 2016年 歯科検診に加え、歯周病検診を開始

フジクラグループ 健康経営宣言

フジクラグループは、社員の健康を重要な経営資源の一つであると捉え、個人の自発的な健康活動に対する積極的な支援と、組織的な健康活動の推進で、「お客様からは感謝され、社会から高く評価され、社員は生き生きと仕事をしている」企業グループを目指します。

フジクラグループ健康増進プログラムを通じた生産性の向上

フジクラグループ健康増進プログラムとは、ICT技術を活用して健康関連データを蓄積・活用し、効果的に社員個人の自主的な健康活動を支援するものです。社員にプログラム参加に必要な歩数計を配付するとともに、各事業拠点に体組成計や血圧計等を設置し、常時測定できる環境を配備しています。

2017年度は、本社地区において身体の柔軟性に課題が見受けられたため、フジクラストレッチ(オリジナル)を新たに開発し、役員および社員がストレッチを行っています。その他、歩数イベントや健康セミナーの実施、腰痛予防のための昇降式デスクの導入支援などを行いました。



経営層も実践するフジクラストレッチ



昇降式デスクの導入



健康セミナーの実施

健康経営に対する外部表彰

これらの取り組みが認められ、経済産業省と日本経営会議が共同で進める「健康経営優良法人2018~ホワイト500~」に2年連続で選定、経済産業省と東京証券取引所が共同で進める「健康経営銘柄2018」に初選定されました。



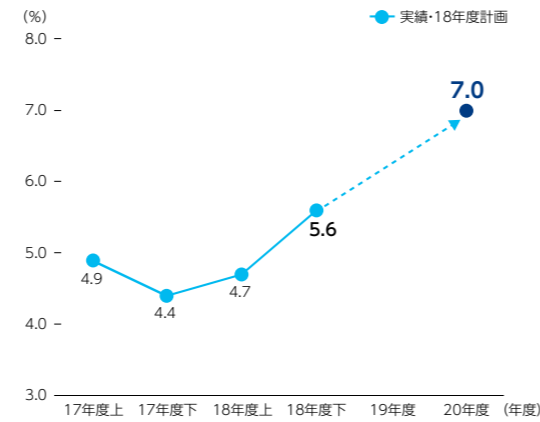
2020中期経営計画

中期経営計画の進捗

2020年度到達目標



営業利益率の推移



重点施策

戦略顧客の深耕	<ul style="list-style-type: none"> ■ 戦略顧客を深耕し、 - 更なる事業の成長を図る。 - 新たな事業機会を捉える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 戦略商品(SWR®/WTC®)による顧客深耕の加速 2. 品質の差異化による顧客の信頼獲得
新規事業創出のスピードアップ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規事業推進の体制強化 ■ 重点分野 - 自動車関連 - 産業用機器 - 医療機器 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車をプラットフォームとした製品・技術・ソリューションを強化 2. 医療・ファイバレーザ事業の取り組み
オープンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ■ ポートフォリオ、バリューチェーンのミッシングピースを補い、新たな顧客価値を生む。 ■ 技術開発、事業開発、事業の成長のスピードアップ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 価値共創型オープンイノベーション - アクセラレータとの連携 - イノベーションハブの設置
経営改革、事業構造改革	<ul style="list-style-type: none"> ■ コーポレートガバナンス・コード対応 ■ 多様化した事業に対する意思決定の質・スピードの向上 ■ 経営基盤の強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 監査等委員会設置会社への移行 2. 取締役会の人財多様性を強化 3. 不祥事予防プリンシプルの活用・コンプライアンスの徹底 4. ESGへの取り組み

重点施策の取り組み

戦略商品(SWR®/WTC®)による顧客深耕の加速 (SWR®:Spider Web Ribbon® / WTC®:Wrapping Tube Cable®)

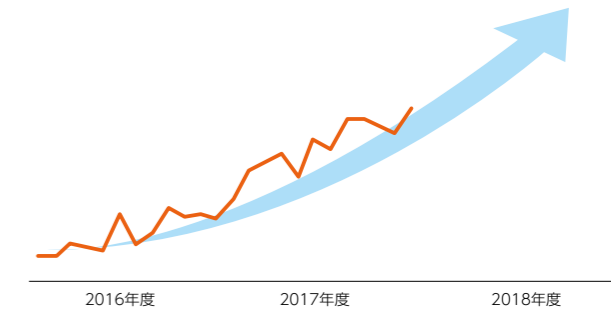
- さらなる成長と将来への布石を行う
- 需要拡大の機会到来とマーケットのデファクトスタンダードへ
 - 5G、IoTの進展と北米を中心としたFTTxのさらなる加速
 - ハイパースケールデータセンターは一層の高密度化へ管路不足への対応、電力柱への共架要望の高まり



- 1管路に布設可能なファイバ心数のアップ
- 既設設備を有効活用でき、追加の土木工事が不要
- 細径軽量ケーブルにより、布設容易・長尺布設可能・ドラム小型化が図られ輸送コスト減

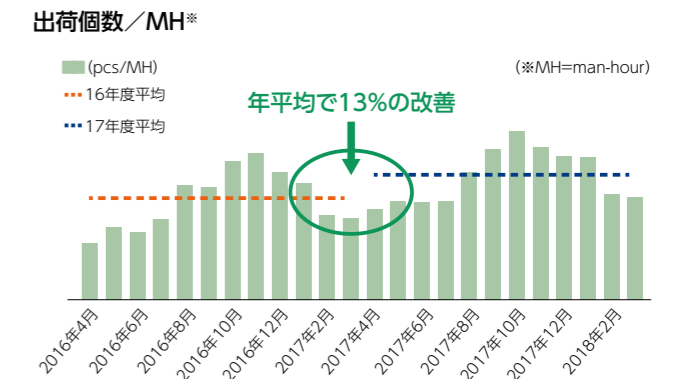
光ファイバコア長換算出荷量

- 16年度に比べ17年度は2.8倍の販売量
- マーケットは着実に拡大中



戦略顧客との信頼関係を強化し健全成長を目指す

- 品質を根幹に据えた事業運営を継続
- 需要変動に対応する固定費の変動費化に加え、自動化・IoT化による製造革新を図る
 - 不良品の外部流出を防ぐことでお客様からの信頼を獲得。今後は、内部品質をより高め、利益率向上を目指す
 - 製造・検査の自動化を推進し、省人化による生産性向上を目指す



自動車をプラットフォームとした製品・技術・ソリューションを強化

- お客様へ全社横断での製品・技術ソリューションを提供
 - コーポレートR&D部門に自動車電装R&Dセンターを設立
 - 欧州にFujikura Technology Europe GmbHを新設

フジクラグループの自動車関連製品・技術



新規事業創出のスピードアップ

医療向け事業の取り組み

コア技術は、「撮像」と「小型化」

例：体内直接撮像技術

- 体内細部に挿入して撮像する方法をほぼ網羅し、お客様に最適な提案が可能 (細径CMOS、イメージファイバ、OCT、超音波内視鏡)
 - 極細径CMOSイメージセンサ内視鏡により、ソリューション提案を一層強化
- ※OCT:Optical Coherence Tomography (光干渉断層撮影)



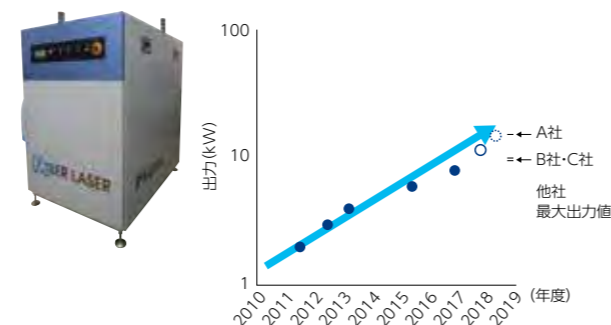
例) 極細径φ1.3mm CMOS内視鏡

ファイバレーザ事業の取り組み

マルチモードファイバレーザの高出力化により、切断の高速化や切断面の高品質化

- 業界最高水準の高パワー化に成功
- 競争力ある価格の実現

高出力化の推移



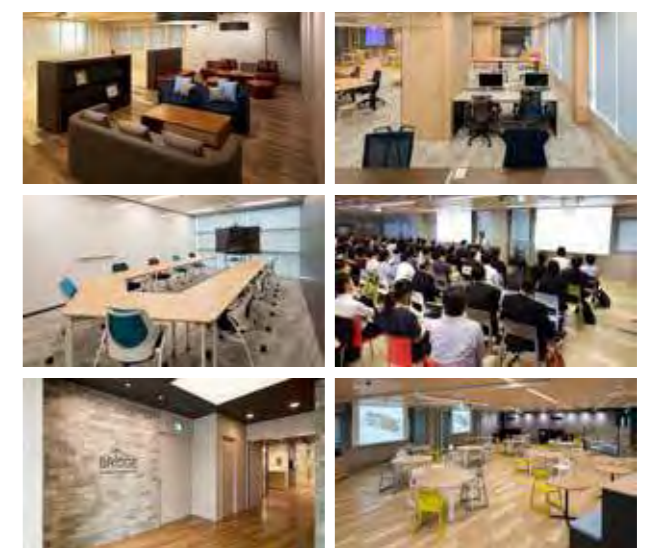
イノベーションハブBRIDGEの設立

- BRIDGEはイベントスペース、コラボレーションスペース、コワーキングスペース等で構成されており、企業・団体、研究機関、行政・自治体等から多様な方々が集い、価値共創を実現していくための空間です。
- アクセラレータ2社 (crew社、PLUG AND PLAY社) と連携し、オープンイノベーションを推進していきます。



どんな未来も、出会い次第だ。

Fujikura Innovation Hub BRIDGE
<http://www.bridge.fujikura.jp/>



2030年ビジョン

オープンイノベーションにより、2030年ビジョン実現に向けて取り組みを展開

フジクラグループは、2017年3月に2030年ビジョンを策定しました。世界がかつてない規模とスピードで変化を遂げようとしている中、来たるべき“みらい”社会の課題に的確に答えていくことが、フジクラグループ自身の将来を切り拓くためにも必要不可欠であると考えています。4つの市場分野 (Advanced Communication, Energy & Industry, Life-Assistance, Vehicle) を定め、オープンイノベーションを通じた新たな価値の創出に取り組んでいきます。

フジクラグループは、4つの市場分野を通じて未来社会の課題に応えます

- 社外の資源を有効活用
- 「価値共創型」のオープンイノベーション実践

4つの市場分野と提供する価値



研究開発

研究開発責任者からのメッセージ

“つなぐ”テクノロジーを支えるコア技術基盤である、「光」、「無線」、「電子部品」、「電線・ケーブル」の4領域に研究開発資源を重点的に投入し、コア技術基盤を構成する要素技術をより一層強化して世界トップレベルを維持し、“つなぐ”テクノロジーの技術優位性を確保していきます。これらのコア技術基盤の周辺部へ技術拡大を図り、情報通信、エレクトロニクス、エネルギー、自動車電装、医療・産業用機器の5つの事業領域で、社会の変化や顧客ニーズを先取りした新商品の開発および新規事業の創出を行い、フジクラグループの新陳代謝を加速していきます。

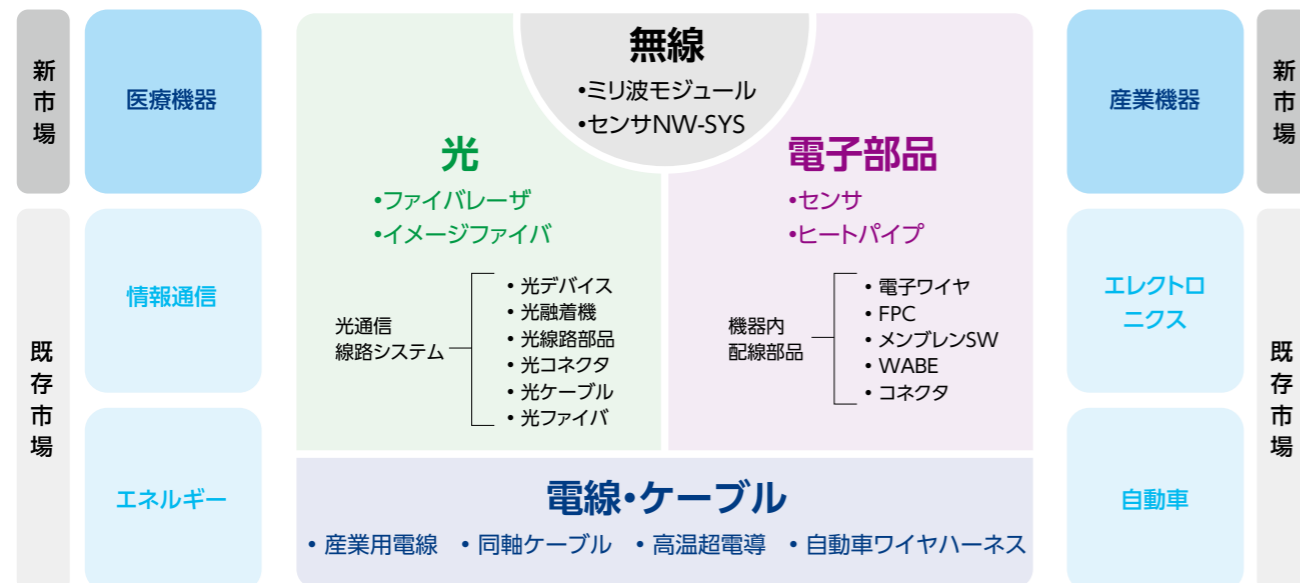
また、グローバル研究体制の構築を通じて、世界の技術トレンドを見据えた研究開発テーマをタイムリーに導入し、さらに社外技術を最大限に活用するオープンイノベーションも積極的に進めていきます。

これらの研究開発活動は、我々が志向する市場・技術を広く俯瞰しつつ、1総合研究所、2センター(材料技術、自動車技術)が全社研究開発を、また事業部門の開発部が部門別開発活動を進めていきます。

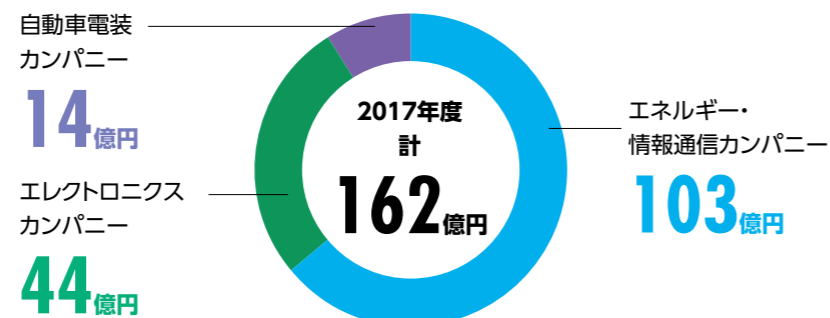


代表取締役 専務取締役
和田 朗

“つなぐ”テクノロジーを構成するテクノロジー・プラットフォーム



■カンパニー別研究開発費



先端技術総合研究所

情報通信、エネルギー、エレクトロニクス、自動車電装の4つの技術領域と、その中間融合領域も含めて総合的な研究開発を行っています。次世代に向けた新しい技術の研究と世界中のお客様から求められる魅力的な製品の実現に向けて、活動を続けています。



研究領域

希土類系高温超電導線材

フジクラでは事業化を目指し、希土類系高温超電導線材およびコイルを開発しています。希土類系高温超電導線材は、第2世代の高温超電導線材と呼ばれ、医療分野をはじめ、さまざまな産業機器への応用が期待されています。2016~2018年度は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)より受託した「高温超電導実用化促進技術開発」において従来比1.5倍(当社比)となる高電流密度化を実現した高性能な超電導線材の開発を進め、2018年度に同線材の量産化に

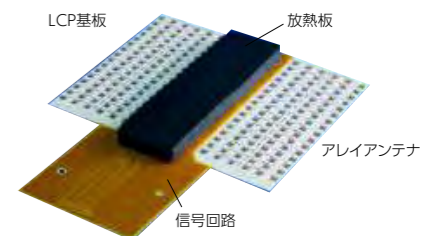
成功しています。当社は今後も品質・信頼性に優れた超電導線材を提供することで脱炭素社会の実現に貢献していきます。



高利得フェーズドアレイ搭載60GHz帯ミリ波RFモジュール

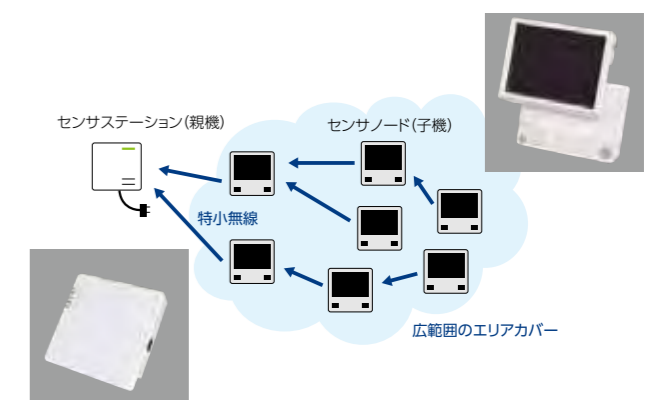
60GHz帯で高速・長距離伝送を実現する、組込型無線通信モジュールの開発を進めています。本モジュールは、フェーズドアレイを用いたビームフォーミング機能(電波を特定方向に集中して発射する技術)により、高利得で鋭いアンテナビームを広範囲に方向制御できることが特長です。本ミリ波RFモジュールは、柔軟性と低損失を兼ね備えた多層液晶ポリマー(LCP)基板上に設計・実装した、高利得な送受各16素子のアレイアンテナ

を高出力フェーズドアレイICによって駆動する構成で、±45°の任意の角度に約7.5°幅の鋭いアンテナビームを向けることが可能であることを実証しました。



極低消費電力型マルチホップ無線センサシステム

本システムは、低照度環境下でも優れた発電性能を発揮する色素増感太陽電池を、エネルギーハーベスティングデバイスとしてセンサ機器用自立電源に搭載し、無線部には「マルチホップ機能」を実装することで、極低消費電力での多段中継を実現し、カバーエリアの飛躍的な拡大と、通信データの迂回ルート確保による冗長性向上を同時に達成しています。これまで適用が難しかった橋梁などのインフラ監視用途、山間部の法面監視などの防災用途、および室内の温湿度・照度を監視・制御することによって達成可能なZEBなど、さまざまな用途に低構築コスト・メンテナンスコストのセンシング・システムを提供します。



エネルギー・情報通信カンパニー



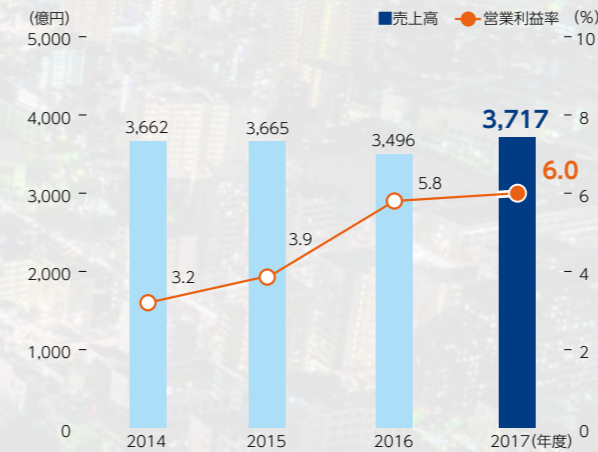
カンパニー統括からのメッセージ

2017年度に着手した構造改革、差別化商品、生産技術開発の仕上げに目処をつけるとともに、旺盛な情報通信需要に迅速に対応すべく基盤づくりを進め、稼ぐ力を強化します。

常務取締役
細谷 英行



売上高と営業利益率の推移



カンパニー概要

より速く、高品質で大容量の“つなぐ”を求めて、ネットワークはNGN(次世代基盤ネットワーク)へと進化しています。それを支える光ファイバでフジクラグループは常に世界トップレベルです。その光ファイバを極低損失で接続する光融着接続機は“世界No.1”であり、私たちは光のトータルソリューションをご提供しています。

社会の基盤を支える電力エネルギーの安定供給に貢献することは、創業以来の私たちの原点です。電力会社向け電力ケーブル・架空送電線から汎用低圧ケーブル・産業用ケーブルまで、電力インフラに必要な不可欠な製品をグローバルにお届けするフジクラグループは、世界のトップランナーとして高い評価をいただいています。

主要製品

- 光ファイバ・光ファイバケーブル
- 光融着接続機
- コネクタ付光ケーブル
- ネットワーク関連製品
- 送電線
- 産業用電線
- エコ電線
- エンジニアリング

経営環境

エネルギー・情報通信カンパニーは、高い収益力と強い新陳代謝力を持つ事業体になることを目指しています。これまでに、事業の構造改革と成長分野ヘリソースを再配分することを進め、2018年度からその刈取りが始まる年としています。

2017年度は、データセンター・モバイル・FTTxなど通信インフラへの投資が旺盛で、中国、北米を中心に光ファイバの需要が増加しました。2018年度も世界的に光ファイバ需要は継続する見込みであり、需要の動向を見極めながら光ファイバ・光ケーブルの増産を進めていきます。

また海外EPC事業では、ミャンマーを含む東南アジア諸国およびブラジルとその周辺国の電力インフラ市場において急速な成長が見られます。各国のパートナーと連携し、さらなる成長を目指しています。

注力製品



6,912心の光ケーブル (SWR®/WTC®)

世界で最も高密度構造で、世界最大心数の6,912心を実現。布設コストの高い地下管路の光ファイバ本数を大幅に上げることが可能となります。



超多心SWR®/WTC® 配線ソリューション

超多心WTC®の登場に合わせ、コンパクトながら収容効率を高め、現場での作業時間短縮に寄与する接続・成端箱をラインナップしています。



低風圧低ロス 架空送電線

PLY(多角形Polygon)構造とすることで風圧荷重が減少、またアルミニウム断面積が増えることで送電ロスが減少し火力発電によるCO₂発生が減少します。

エレクトロニクスカンパニー



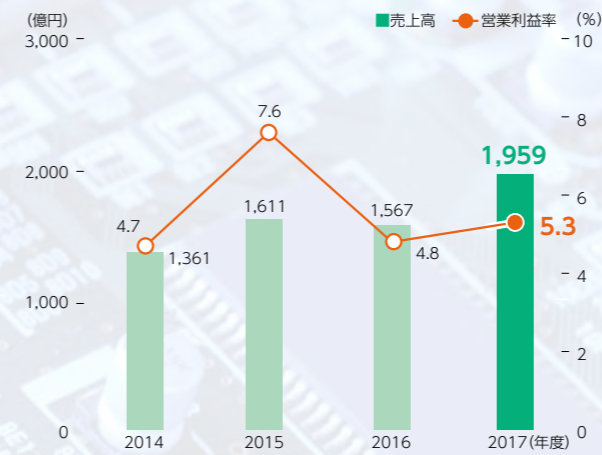
カンパニー統括からのメッセージ

2018年からエレクトロニクス事業の責任者に就任しました。これまで以上に製造拠点と一体となった運営により、スピードある経営と競争力強化に努め、お客様からの期待に応えていきます。

常務取締役
小林 郁夫



売上高と営業利益率の推移



カンパニー概要

小型・高集積化するエレクトロニクス製品にとって、プリント回路や電子ワイヤ、コネクタなどの電子部品は繊細な“神経”にあたります。フジクラグループは、この分野でも長年蓄積した技術力を発揮し、スマートフォンやデジタルカメラなどの最先端機器に、小型・軽量化に最適なFPC(フレキシブルプリント配線板)をはじめ、多様な電子部品、モジュールをトータルにご提供するワンストップソリューションを実現しています。また、グローバルに展開するフジクラグループは、高密度実装を含めたこれらの高難度電子部品を設計からマスタプロダクションまで多様化するお客様のご要望にお応えし、現在のエレクトロニクスの世界を支えています。

主要製品

- FPC
- コネクタ
- 極細同軸ケーブル
- サーマルソリューション
- HDD関連製品

経営環境

エレクトロニクスカンパニーは、FPCとコネクタともに主要顧客のスマートフォン向けを中心に大幅な増収増益となりました。これは、需要の増加だけでなく、これまで進めてきた自動化による省人化や地道な生産性改善により、稼ぐ力が付いてきたものと分析しています。

2018年度は、2020中期経営計画の中間年であり、中期計画の線上に乗せるための重要な年と位置づけています。FPCとコネクタは歩留・品質改善に努め、スピーディな対応を通じて顧客との関係をさらに深化させます。他の電子部品事業は、より安定した収益を上げる事業体を目指し、選択と集中を進め、次世代の柱となる商品創出にも取り組みます。さらに、IoTやAIといった最新技術の導入を行うことで競争力強化に努めていきます。

注力製品



DRL(Daytime Running Light)用FPC

昼間走行灯(DRL)に、LEDを実装したフレキシブル性のあるFPCを採用することで、自動車の自由なデザインが可能です。



車載・携帯端末用基板間コネクタ

車両の電子制御化・小型化の要求に対応した基板間コネクタを開発し、バリエーションを拡充しています。基板実装面積の省スペース化を実現し、嵌合後にロック機構が働き抜けにくくなることで、強い耐振動性と高い信頼性を併せ持つコネクタです。



デジタル出力微圧センサ (AL4シリーズ)

高精度な微小圧力検知(10kPa以下)と高耐圧性能の両立を実現した製品です。呼吸器系医療機器や産業用空圧機器に利用されています。

自動車電装カンパニー



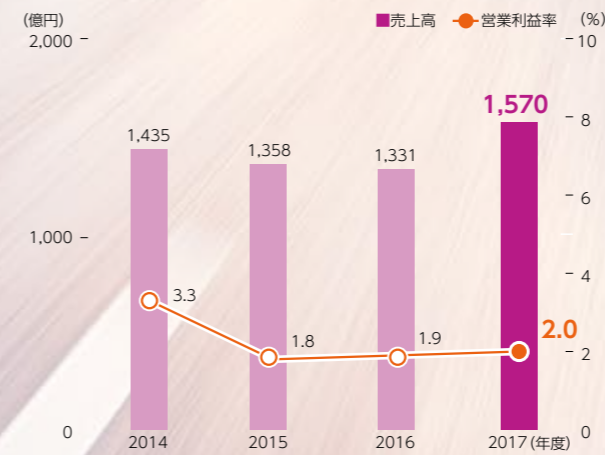
カンパニー統括からのメッセージ

ハーネス事業を基軸に健全な成長を図り、自動車プラットフォームにて未来に繋がる新規事業を創出し、フジクラグループの安定成長に貢献します。

常務取締役
笹川 明



売上高と営業利益率の推移



カンパニー概要

グローバルに発展を続ける自動車産業。電子情報化が進むカーエレクトロニクスの世界で自動車の安全、安心、快適を支えているのは自動車用ワイヤハーネスです。フジクラグループは、自動車用ワイヤハーネス、車内LAN、シートセンサ、環境対応で需要増が見込まれる電気自動車用給電コネクタなど、トータルな配線システムで車の進化を加速させています。フジクラグループは、グローバルな生産拠点で車の総合配線システムをお客様にご提供し、進化を続けるカーエレクトロニクスの世界を“つなぐ”テクノロジーでリードしています。

主要製品

- ワイヤハーネス
- 電装品
- シートセンサ

経営環境

自動車電装カンパニーは、北米向けの需要が前年度に引き続き好調となり、欧州向けは新車種向け製品の量産が始まったことなどで前年度比較239億円増の1,570億円と大幅な増収となりました。利益面では、欧州向け事業の大幅な採算悪化を主因として、31億円の営業損失となりました。

新エネルギー車やコネクテッドカーといった分野で急速に進展する自動車用製品の開発体制を強化すべく、主要顧客に密着した開発活動を行う自動車電装R&Dセンターを新設しました。

2018年度は、円高の影響を懸念するものの、新車種立ち上がりにより前年度並みの売上高を見込んでいます。営業利益については、東欧製造拠点の生産性の改善に取り組み、世界3極一丸となって邁進していきます。

注力製品



太物アルミ電線

EV、PHEVの大電流回路の軽量化のために太物アルミ電線を開発し、2018年9月から量産開始の予定です。



超音波接続端子

太物アルミ電線と端子の電氣的接続信頼性を高めるため、超音波接続用端子と接続技術を開発しました。



着座センサ(Sパネシート用)

新型の着座センサは、シートの座面クッション材下に配置されているパネへ設置するタイプであり、従来構造に比べ小型化を実現しています。

不動産カンパニー



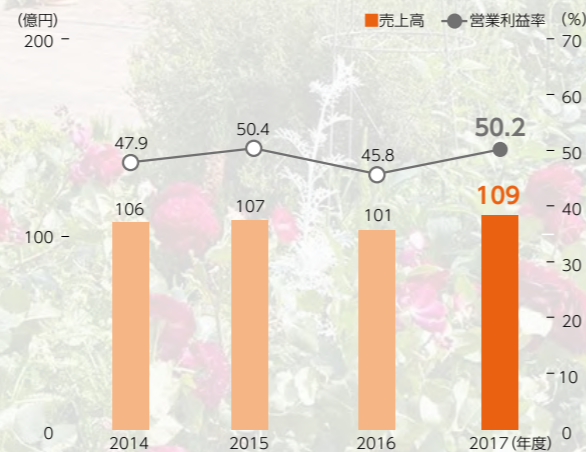
カンパニー統括からのメッセージ

深川ギャザリアは開業から今年で18年目になりました。これまでに蓄積された運営ノウハウを生かし、中長期にわたり資産の価値の維持・向上に努め、本業の下支えという役割を着実に果たしてまいります。

常務取締役
伊藤 哲



売上高と営業利益率の推移



カンパニー概要

オフィス・ショッピング・レストランなど、人々が集い憩う街・深川ギャザリアの運営によるビル賃貸事業を行っています。

経営環境

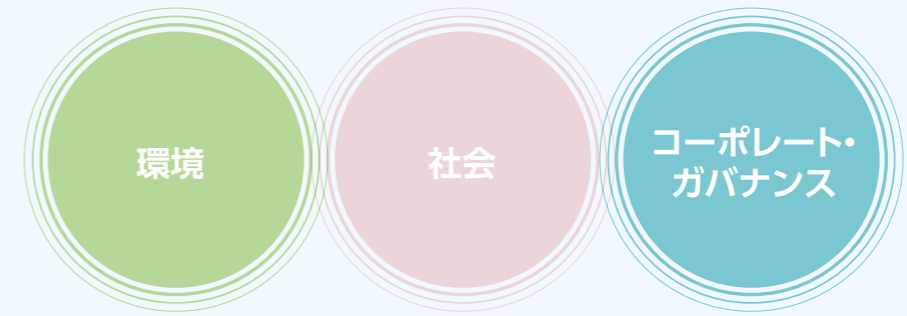
不動産カンパニーは、都心からの近さという立地を武器に、高い稼働率と安定的な収益確保を続けています。

2017年度は、前期にオフィスビル1棟を買い取ったことにより増収増益となり、営業利益は過去最高の55億円となりました。

2018年度は、一部テナントの入れ替えによる一時的な空室が発生するため減収減益となりますが、2019年度以降は回復すると見込んでいます。

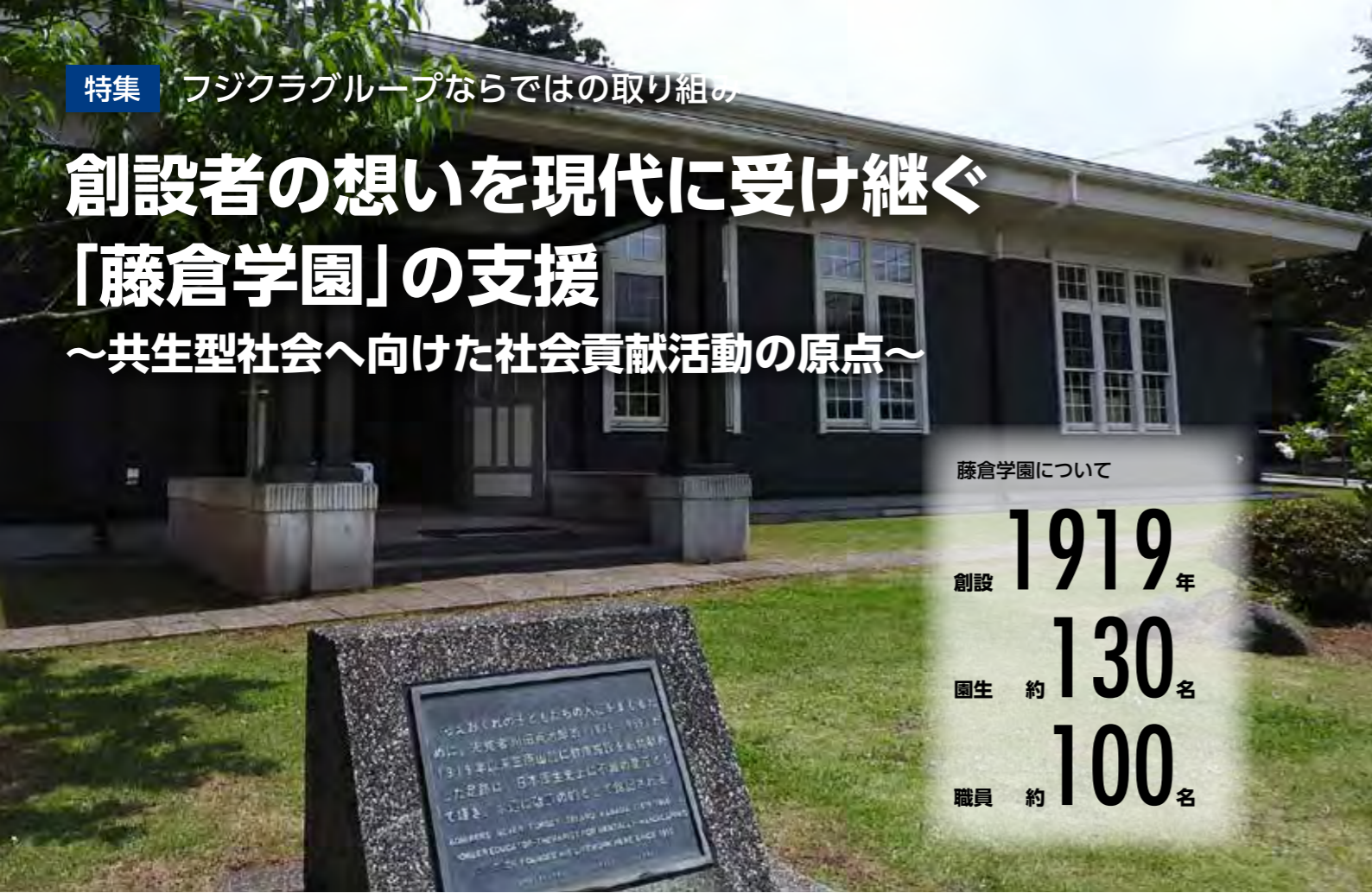
Sustainability Section

フジクラグループならではの取り組み



創設者の想いを現代に受け継ぐ 「藤倉学園」の支援

～共生型社会へ向けた社会貢献活動の原点～



藤倉学園について

創設 **1919** 年
園生 約 **130** 名
職員 約 **100** 名



藤倉学園とは

社会福祉法人「藤倉学園」は、約100年前の1919年6月7日に創業者藤倉善八の実弟である中内春吉(元監査役)が、知的障害者および児童のために多額の私財(現在の金額に換算すると約20億円)と伊豆大島の土地4万坪を学園の土地建物に寄贈し、伊豆大島元町に創設されました。現在、伊豆大島と多摩(八王子市)に施設があり、約130人の園生に100名程の職員が24時間体制で教育・厚生を行っています。

フジクラグループは、創設以来、歴代社長や役員が理事として経営を支援し、また会社の寄付とともに社員個人からの寄付を今日まで続けてきました。フジクラグループは、「藤倉学園」への支援を社会貢献活動の原点として、これからも大切に守っていきたいと考えています。



藤倉学園創設者 中内春吉



自立支援施設「フジカフェ」



大島藤倉学園

社会における藤倉学園の位置づけ

知的障害者に関する社会課題

- 知的障害者施設の受け入れ不足
- 施設職員の人手不足
- 誰も置き去りにしない共生型社会づくりの実現

藤倉学園の意義

- 特殊な事情を抱える知的障害者の受け入れ(若年から高齢者まで)
- 利用者に教育、養育、生活の援助を実施
- ノーマライゼーションの促進に寄与

フジクラグループの支援の在り方

- 創設者の想いを将来世代へ受け継ぐ
- ボランティアや寄付等、支援の輪を広げていく
- 共生型社会の実現へ社員のマインドを醸成する

主な支援活動

事業所の募金を贈呈

フジクラ佐倉事業所では、毎年末に藤倉学園支援のための募金活動を行っています。2017年度も集まった募金を藤倉学園の学園長に届けました。今後も事業所の支援活動を継続していきます。



募金の贈呈

株主総会でフジカフェ製品を配布

フジクラグループのCSR活動を広くステークホルダーの皆様へ知っていただくことを目的に、2017年の株主総会にご来場いただいた株主の皆様へ、大島藤倉学園が運営するフジカフェで製造・販売しているクッキーを配布しました。株主の皆様にもフジクラグループの社会貢献活動の原点をご理解いただくため、今後も継続していきます。



株主総会来場者へ配布



新入社員ボランティア活動

毎年、新入社員は研修の一環として、多摩藤倉学園でのボランティア活動を行っています。2017年度は施設内の「畑づくり」や「ペンキ塗り」を行いました。ボランティア活動で社員同士の絆を深めるとともに、先人たちの志の高さを実感し、フジクラのDNAを継ぐ者として藤倉学園への支援の重要性を認識しました。



畑づくりを行う新入社員

フジカフェ製品即売会

伊豆大島にある「フジカフェ」は、藤倉学園入所者が自立のために職業訓練などを受ける、生活介護事業所です。フジカフェで製造された製品(パウンドケーキやクッキーなど)を社員に販売する「藤倉学園製品即売会」をフジクラ本社で開催し、支援を継続しています。



年2回行われる即売会

生物多様性確保への決意と 地域コミュニティのシンボル 「フジクラ 木場千年の森」



フジクラ 木場千年の森

創設 **2010**年
面積 **2,200**m²
特徴 **在来種**限定

自然資本を活用する企業としての認識

フジクラグループは、自らの事業活動が地球環境と密接な関係にあることを深く認識し、地球環境を保護するために最大の努力を尽くすことを目指し、“人にやさしい、地球環境にもやさしい企業グループ”を掲げています。すべての生きものは、直接的、間接的にお互いに支え合って生きており、生物多様性によってもたらされる多くの恵みによって私たちの命も暮らしも支えられています。フジクラグループは、2013年1月に「フジクラグループ生物多様性長期ビジョン・ロードマップ2030」を策定し、社員一人ひとりが生物多様性の保全に対する認識を高める取り組みを進めています。

事業活動に伴う生物多様性への影響

自然資本の利用

- エネルギー資源:原油、天然ガス、石炭等
- 鉱物資源:銅、アルミニウム、鉄、錫等
- 再生可能資源:水、木材等

生物多様性への影響

- 大気汚染:排ガスや化学物質の大気排出による周辺地域の生態系への影響
- 水質汚濁:排水による下流域の生態系への影響
- 気候変動:気候変動に伴う生態系への影響、生物種の減少加速
- 生息地の喪失:工場建設による土地の利用
- 生物種の減少および移動:気候変動の影響や、原材料・製品の輸送に伴う種の移動

「フジクラ 木場千年の森」の創設

フジクラグループは、本社敷地の再開発にあたり、地元の学校や地域の皆様からの緑化への要望や、生物多様性への注目が高まったことを受け、2010年11月に、自然空間であるピオガーデン「フジクラ 木場千年の森」を本社敷地内に創設しました。

「フジクラ 木場千年の森」の名前には、江東区木場の地で地域の皆様と一緒に「豊かな自然が遙か一千年先の未来まで続いていくように」との願いを込めています。

広さ2,200m²、2つの池とそれをつなぐ小川、浮島、遊歩道などがあり、生きものたちが優先される空間として、数百年前の

武蔵野台地の豊かな森や林を再現するために、在来種にこだわり設計しました。現在では、カルガモやカワセミの雛が巣立つほどに森が成長しています。



「フジクラ 木場千年の森」正面



カワセミ



ヒヨドリ

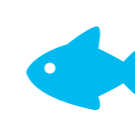
■「フジクラ 木場千年の森」と生きものたち

植物



- 関東在来80種 高中木500本、低木2,000本
- 草類・コケ・水草類65種 約15,000株

魚



- 荒川流域の魚・エビ・貝類に限定
- 10種 約800匹を放流し、現在、千数百匹に

鳥



- カワセミ、ヒヨドリ、カルガモなど約20種

昆虫



- トンボ、チョウ類など50種以上を確認



地域の皆様とのコミュニケーション

フジクラグループの取り組みを地域の皆様にご説明する機会として、年2回、ピオトープ説明会を開催しています。また、地元小学校の自然教育活動や行政主催のエコツアーなどにもご利用いただいています。フジクラグループは「フジクラ 木場千年の森」を通じ、未来に向けた生きものたちの豊かな生態系確保の活動を進めるとともに、地域の皆様とのコミュニケーションを大切にしていきます。



エコツアー



東京都「江戸のみどり登録緑地(優良緑地)」に登録

「フジクラ 木場千年の森」が、東京都「江戸のみどり登録緑地」の優良緑地として2017年に登録されました。この制度は、建築物等の敷地において東京に自然分布している植物(在来種)を植栽することで、昆虫や鳥などの動物も含め、東京の生きものに適した環境を回復させることを目的としています。フジクラは、東京都が官民連携で進める在来種植栽プロジェクト「江戸のみどり復活事業」に参加し、在来植栽の普及に向けた方策を関係業界とともに検討してきた取り組みが評価され、登録されたものです。



江戸のみどり登録緑地(優良緑地)ロゴ

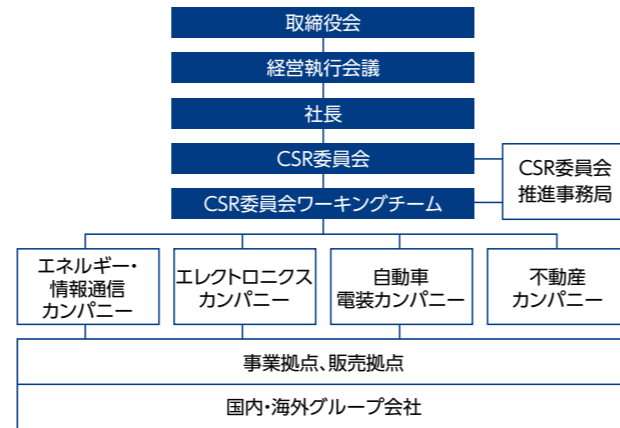
フジクラグループのCSRマネジメント

CSR推進体制

フジクラグループのCSRマネジメント推進体制は、社長を委員長とするフジクラグループCSR委員会と、その下部組織として常務取締役を主査とするCSR委員会ワーキングチームを中心に構成しています。

フジクラグループCSR委員会では、フジクラおよびグループの年度方針の決定や中長期目標の設定を行い、CSR委員会ワーキングチームは推進組織として、各カンパニーや国内外グループ会社と連携してCSR活動を進め、活動結果の集約や課題の抽出などを行っています。

CSR推進体制図



4つのマテリアリティとCSR重点方策

フジクラグループは、2009年に「フジクラグループCSR基本方針」を制定した際に、「4つのマテリアリティ」を定めました。これは、ステークホルダーインクルージブを念頭に、「マテリアリティ・マトリックス分析」を行い、「ステークホルダーの関心事」と「自社事業への影響度」の2つの視点から評価・検証を行いました。

そして経営戦略との連動を図るため、中期経営計画と同様に2020年度を最終年度としたCSR中期目標を定めています。CSR重点方策が12項目、フォロー項目が11項目あり、2020年度の目標達成へ向けて、毎年目標と実績を評価しています。

4つのマテリアリティ

- 1 誠実な企業活動
- 2 環境への配慮
- 3 人間の尊重
- 4 社会との調和

CSR重点方策と注力するSDGsとの関連

分類	環境 (E)	社会 (S)	ガバナンス (G)
CSR重点方策 (12項目)	1.CO ₂ の総排出量削減 2.水リスク 3.生物多様性確保の活動	4.人権の尊重 5.ダイバーシティ 6.グローバルな人材育成 7.ワーク・ライフ・バランス 8.CSRサプライチェーン・マネジメント 9.地域コミュニティとの連携と貢献	10.グループ経営理念MVCV 11.「社会」との連携 12.情報開示とコミュニケーション
フォロー項目 (11項目)	・グループ環境管理活動指針 ・法令遵守と環境監査 ・環境教育の徹底・充実 ・完全ゼロエミッション ・環境配慮型製品の充実	・安全・衛生・健康 ・お客様満足品質	・コーポレート・ガバナンス ・コンプライアンス ・リスクマネジメント ・国際的な枠組みづくり活動



CSR活動の目標・実績一覧 (2017年度)

[評価] ◎…目標以上に進んだ ○…目標通りに進んだ △…目標未達項目あり ×…目標未達

ESG分類	CSR重点方策	2020年度目標	2017年度計画	2017年度活動実績	評価
環境	1.CO ₂ の総排出量削減	1.CO ₂ 総排出量削減 ①国内連結子会社:3%以上削減(2013年度比) (長期目標2030年度:2013年度比▲6.5%以上) ②海外連結子会社:原単位1.3%以上改善(2014年度比)	1.CO ₂ 総排出量削減 ・国内:1.2%以上削減(2013年度比) ・海外:原単位1.3%以上改善(2014年度比)	(国内)単体1.0%増加 グループ会社6.5%増加 (海外)排出量の売上高原単位12.9%改善	×
	2.水リスク	1.水の使用量の改善目標の設定と改善実施 2.水リスク評価実施、リスク低減実施 3.「CDPウォーター」に回答、評価されている	1.使用量原単位:年1%以上改善	(国内)水使用量原単位(売上高あたり) 前年度比1.6%増加	×
	3.生物多様性確保の活動	1.構内緑地活用で木場千年の森、佐倉千年の森、鈴鹿千年の森が従業員に親しまれる 2.佐倉、鈴鹿の近隣住民へ開放準備完了し、近隣住民とのコミュニケーション計画が完了	1.事業所内自然の有効活用	1.佐倉千年の森プロジェクトにて希少種保護などを重視した整備計画を策定 2.木場千年の森が東京都「江戸のみどり登録緑地」に都内で最初に登録	◎
社会	4.人権の尊重	1.国籍・人種・性別・宗教・年齢・出身会社など、多様な人材が生き生きと働く会社になる 2.グループ全体でハラスメントの正しい認識を持ち、ハラスメントをしない、させない風土を醸成	1.フジクラグループHRMビジョン制定 2.ハラスメント教育の充実	1.フジクラグループHRMビジョンを制定し、多彩な人材活用を推進 2.ハラスメント対応のグループ会社への展開強化	○
	5.ダイバーシティ	1.「フジクラグループHRMビジョン」が国内外全グループに共有、ゴールに向かい共創している 2.「一人一人が主役」の高い当事者意識の多様な人材が「つながり」、独自のアイデアを生み出し顧客ニーズに応える会社になる	1.HRMビジョン制定 2.多様な人材の採用 3.障害者雇用の推進	1.HRMを制定し、社内外に宣言 2.多様な人材を採用(留学生、外国人、女性) 3.グループとして障害者雇用に推進	○
	6.グローバルな人材育成	1.「フジクラグループHRMビジョン」が全グループで共有され共通ゴールに向かって共創している 2.社員が尊重され、魅力的な人材をグローバルで創出し、「夢がある会社」になっている	1.海外語学研修制度 2.グループ人事プラットフォーム構築 3.人材戦略会議の開催	1.海外語学研修制度を導入 2.グループへの共通の人事制度を導入 3.ASEAN地区人材戦略会議を開催	○
	7.ワーク・ライフ・バランス	1.多様な人材がそれぞれに合った勤務体系で、それぞれの役割を果たし、会社に貢献している 2.限られた時間で、生産性高く働くことで、会社に貢献する風土が醸成されている	1.在宅勤務制度 2.WLB労使検討委員会 3.従業員調査	1.在宅勤務制度を本格運用開始 2.労使によるWLB推進のための検討委員会を開始 3.ライフイベントとキャリアの両立に向けた実態調査を実施	△
	8.CSRサプライチェーン・マネジメント	1.カンパニー、主要グループ会社でパートナーズ・ミーティングを開催し適切に運営されている 2.パートナーへのアンケートの実施、評価が適切に行われている 3.グループCSR調達ガイドラインが遵守されている 4.リスクが認識され、カンパニー、グループ会社で管理ができています	1.パートナーズ・ミーティングのグループ展開 2.パートナーCSR推進 3.グローバル・サプライチェーン人権確保促進 4.CSR/SCM監査の検討	1.日本、中国で実施 2.日本、中国でアンケートを実施 3.CSR調達ガイドラインを日本とタイのパートナーズ・ミーティングで遵守要請(継続) 4.海外グループ会社などで監査トリアル実施 国内外グループ会社へのアンケート実施	○
	9.地域コミュニティとの連携と貢献	1.「フジクラがあるよかった」と地域の誇りになる 2.地域を代表する企業になり高く評価される 3.社員はフジクラグループ社員を誇りに思う	1.行政、地域団体、他企業との関係構築	1.行政主催イベントに参加 2.地域団体(環境NPO)と合同イベント開催 3.他企業との連携促進	○
	10.グループ経営理念MVCV	1.全グループで情報共有化(和・英文) ①イントラにMVCV教科書+海外のアクセス ②グループ会社へフジクラオプテッセイ紹介 2.MVCV研修の充実:浸透調査と活動の活性化 3.フジクラブランドとのリンク	1.職場伝道師の育成 2.階層別研修のMVCV研修 3.全員参加のMVCV啓発 4.海外グループ会社への展開 5.情報発信と共有化	1.理念研修や情報交換会を実施 2.階層別研修を実施 3.啓発強化月間を実施 4.海外グループ会社向け理念研修を開始 5.経営理念HPのリニューアルと多言語化	○
11.「社会」との連携	1.イニシアチブ等の情報にCSRの対応が迅速 2.国や省庁等の規制、方針に迅速に対応 3.関連団体や顧客等の情報に迅速に対応 4.SDGs等の要請に迅速に取り組み情報を開示	1.国内、国外のCSR情報を入手 2.SDGs、CSVの推進	1.国連グローバルコンパクト分科会に参加 2.SDGs、CSVを推進 有識者(名和教授)とのダイアログなど実施	○	
12.情報開示とコミュニケーション	1.国際社会が高く評価する情報開示ができる 2.グローバルインデックス銘柄に安定的に選定 3.ステークホルダーの期待に応える情報開示 4.ステークホルダーとコミュニケーションが定期的に行える	1.投資家のESG情報対応 2.ステークホルダーとのコミュニケーション	1.FTSE4GoodとBlossom Japanインデックス組入継続 2.ESG機関投資家への説明実施 3.自治体主催セミナーに登壇	○	

環境

気候変動への対応

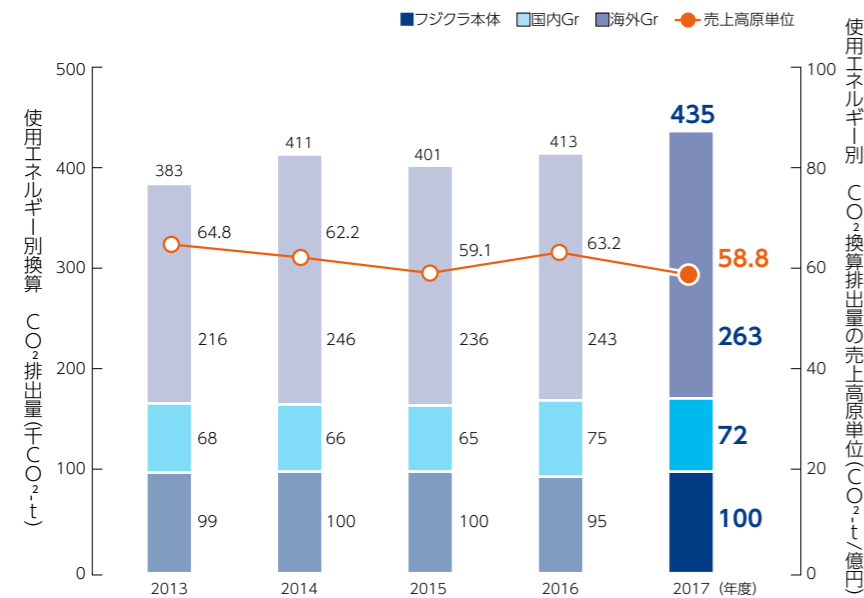
フジクラグループは「2050年ゼロチャレンジ」として、工場のCO₂総排出量の削減に取り組んでいます。目標の達成に向けては、グリーン電力の利用や再生可能エネルギー発電設備の導入によるCO₂排出の少ないエネルギーの利用と、省エネ投資の促進やZEB(ゼロ・エネルギー・ビルディング)などによるエネルギー使用量の削減の2方向から取り組んでいます。

2017年度は、本社ビルとR&Dセンター、フジクラ・ダイアケーブル(FDC)福井工場の電力を再生可能エネルギー100%に変更しました。国内総排出量は事業再編の影響で微増でしたが、海外拠点は原単位改善が進む結果となりました。

また、2020中期目標として、国内グループのCO₂総排出量削減を設定して、政府の2030年度削減目標を遵守して国の施策に貢献していきます。また、海外グループでは、売上金額当たりのCO₂排出量原単位の削減目標を新たに設定し、削減に努めています。

さらに、排出削減の推進策として、社内カーボンプライシングの導入を検討しています。東京都のC&T制度の市場価格を参考に、今後半年に1回、地球環境委員会にて各カンパニーのCO₂排出量と社内価格を発表していきます。

■国内外グループCO₂排出量と売上高原単位の推移



■2017年度の取り組み

本社ビル、R&Dセンター、FDC福井工場の電力を再生可能エネルギー100%に変更



環境パフォーマンスデータの第三者検証の拡大

フジクラグループは、統合報告書の信頼性を高めるために、毎年、独立した第三者による環境パフォーマンスデータの検証を行っています。2017年度のデータについては、国内22生産拠点に範囲を広げ審査を受け、データ管理システムや管理状況等を詳細に確認され、問題のないことが検証されました。

なお、この検証範囲は、国内のCO₂排出量および水使用量の95%以上をカバーするものです。



第三者による審査

2017年度環境パフォーマンスデータ検証の概要
 ●範囲
 フジクラおよび国内連結の22生産拠点
 ●データの期間
 2017年4月1日～2018年3月31日
 ●対象
 事業活動に伴う、①エネルギー起源CO₂排出量(Scope1&2)、②水使用量、③Scope3 Cat3のCO₂排出量
 ●検証会社
 ビューローベリタスジャパン株式会社

LED照明の導入推進

フジクラグループではLED照明の導入を進めています。各拠点では「水銀に関する水俣条約」締結に伴う2020年の規制にむけた水銀灯の計画的なLED照明への切替え、また、天井照明を中心にLED化を行い、省エネとCO₂排出量の削減に努めています。



未来のために、いま選ぼう。

生物多様性の保全

フジクラグループは、2012年度に『フジクラグループ生物多様性確保ガイドライン』を制定し、その運用をスタートしました。グループ社員一人ひとりが生物多様性保全の重要性をしっかりと認識するとともに、「フジクラ 木場千年の森(P51参照)」への取り組みを通じ、私たちの事業活動の中で『フジクラグループ生物多様性確保ガイドライン』の実践を進めていきます。

「フジクラ 佐倉千年の森」プロジェクト

フジクラ佐倉事業所は、フジクラグループ地球環境委員会の策定した「フジクラグループ生物多様性長期ビジョン・ロードマップ2030」に基づく活動と、フジクラグループの健康経営宣言に基づく社員の健康マネジメントの活動などの観点から、同事業所内に広がる自然豊かな緑地の活用の検討を進めています。2016年11月には「フジクラ 佐倉千年の森」プロジェクトを

設立し、3年間の活動計画を立て本格的な活動を開始しました。現在、幅広く意見を取り入れ、緑地の配置や設計、活用方法等の検討を進めています。なお、整備にあたっては特例子会社であるフジクラキューブの社員が活躍し、将来的には地域の皆様にも来ていただけるように、プロジェクトを進めています。

■「フジクラ 佐倉千年の森」プロジェクトとSDGsとの関連



緑地に自生する希少種のキンラン



社員と家族を招いたイベントの実施

社会

働き方改革の取り組み

グループHRMビジョンの制定

フジクラグループは、今後グローバル競争を勝ち抜いて発展していくために、人材マネジメントの原点・羅針盤として、「グループHRMビジョン(Group HRM Vision)」を2017年9月に制定しました。

グローバルな人材確保や登用を加速させ、グループ全社員が仕事を通じて成長を実感し自己実現できるような環境づくり、国籍・人種・性別・宗教・年齢などにとらわれないキャリア機会の提供、多様な背景・考え方を持つ人材が活躍できるダイバーシティの推進、グローバルリーダーの育成等に取り組んでいくことを明文化し、社内外に広く宣言するものです。

グループHRMビジョン 「フジクラグループで働く皆さんが財産」

- 人材像** 私たちは、「一人ひとりが主役」として行動する高い当事者意識を持った社員を採用・育成・処遇します
- 求める行動** 私たちは、社員一人ひとりがお互いを尊重し、協力・激励しながら変革を主導することを奨励します
- ダイバーシティ** 私たちは、国籍・人種・性別・宗教・年齢などに関わらず、多様な人材が活躍できる組織づくりを推進します
- 機会提供** 私たちは、グループのさらなる成長に必要なリーダー人材を世界中から発掘し、機会を提供し、抜擢していきます

働き方改革プロジェクトの推進

多様な人材活用を検討する専任組織として、2016年4月に「ダイバーシティ推進プロジェクト」を発足し、取り組みを開始しました。2017年からは、表層的な多様化推進のみならず、根本的な働き方を改革し、多様なワークスタイルの人材が参画・活躍できる組織風土・文化づくりを目指すべく、従前の「ダイバーシティ推進プロジェクト」を「働き方改革プロジェクト」と改称し、取り組み範囲を拡大して活動しています。

主な取り組み

- 1.ダイバーシティ推進に関するトップメッセージの発信
- 2.男女平等な採用・登用の継続
- 3.在宅勤務制度導入による柔軟な勤務体制の構築
- 4.女性社員意識・ニーズ調査アンケートおよびインタビュー
- 5.組織開発ワークショップトライアル
- 6.育児、介護の実態調査

えるぼしの継続取得

「えるぼし」は、女性活躍推進法に基づく行動計画の策定・届出を行った企業のうち、女性の活躍促進に関する取り組みの実施状況が優良な企業に対して、厚生労働大臣が認定する制度であり、5つの認定基準を満たした項目数により3段階で認定を受けます。フジクラは、全項目で基準を満たしており、最高段階(3つ星)の認定を受けました。

※認定基準:①採用、②継続就業、③労働時間等の働き方、④管理職比率、⑤多様なキャリアコース



人権の尊重

フジクラグループ人権方針

フジクラグループでは、グローバルに事業活動を行ううえで、世界人権宣言などで定める基本的人権を尊重することを、2017年1月に制定した「フジクラグループ人権方針」の中で明示しています。

また、人権に関する方針や施策の立案にあたっては、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」「OECD多国籍企業行動指針」「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」「国際労働基準」といった国際的な原則も参照し、人権に対する理解の促進と実現に努めています。

フジクラグループ 人権方針

- | | |
|-----------|---------------|
| 1.国際規範の尊重 | 5.人権デューデリジェンス |
| 2.人権尊重の責任 | 6.教育 |
| 3.適用の範囲 | 7.対話・協議 |
| 4.適用法令の遵守 | 8.情報の開示 |

現地雇用に関する賃金管理

フジクラグループは、生産拠点の新設や拡張にあたって、雇用創出を通じて地域の社会・経済の活性化に貢献すべく、現地で採用を行っています。なお、雇用にあたっては、現地の最低賃金を上回る給与を保証しています。

賃金については各国の労働基準法や労働協約に基づき、適切な賃金、通勤等の諸手当、賞与、その他臨時に支払われる給与、退職金などを各社ごとに規定しています。

フジクラおよびフジクラグループの管理職においては、「現在担う仕事・役割」に基づき報酬を決める「役割等級制度」を導入しており、報酬体系上、性別による格差はありません。

海外においては、国ごとに、最低賃金、法定給付、超過勤務等に関するすべての賃金関連法令を遵守した規則を定め、これに基づいて運用し、決められた支払い期間と時期に支給しています。

安全衛生活動

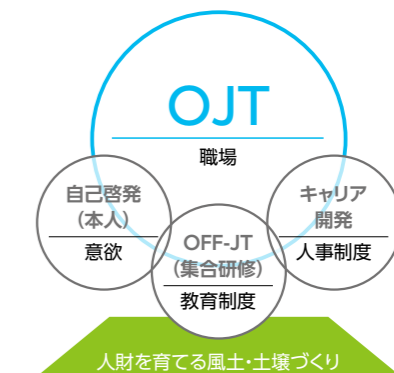
「安全はすべての基本であり、大切な企業基盤である」とのフジクラグループ安全衛生基本方針に基づき、グループ全体での安全衛生活動を推進しています。「2020年度までに各拠点のすべてのリスクを許容可能なレベルまで低減する」との社長

メッセージを発信し、すべてのリスクに対するリスクアセスメントを実施しています。リスクレベルの高い作業は、2020年度末までに本質安全対策を実施し、安心・安全な職場の実現に努めています。

人材育成

人材育成は、各職場で行われる「OJT(On the Job Training)」を中心に置きながら「評価」と「育成」を関連付け、継続的に評価サイクルを回しながら、本人と上司の間で“個人の強みや課題”を認識・共有し、強みを伸ばし課題を改善させ、さらなる成長につなげる取り組みを人材育成のトータルシステムとしています。

また、キャリアチャレンジ制度を導入し、自身のキャリアプランを実現しやすい社内公募を構築しました。これによって自主性を醸成しています。



社 会

品質管理

フジクラオリティ方針

フジクラグループは、全社品質方針「フジクラオリティ方針」を2016年6月に改定しました。「品質を根幹に据えた経営」を通じ、「お客様の信頼に応える」品質管理に加えて、今回、さらなる製品の安全と調達品・外注品の品質の確保を強化するのが目的です。フジクラグループの品質管理活動は、製品品質だけでは

なく、さまざまな業務プロセスの質も対象にしています。これは、「日々の生産プロセスにおいて、製品を生み出す業務の質そのものが製品の品質として作り込まれていく」という品質管理のポリシーによるものです。

フジクラオリティ方針

1. お客様の信頼に応え、本質安全を備えた最高のクオリティの製品とソリューションを提供する。
2. 自社生産品はもとより、調達品・外注品の高いクオリティを確保する。
3. 社員一人ひとりが、自己の仕事のクオリティの継続的な改善を目指す。

品質管理教育

フジクラグループは、人材育成計画の一つとして、若手技術者を対象とした品質管理教育を実施しています。品質管理教育では、「すぐに使える」を目的に、実践に役立つ品質管理の基礎能力の獲得を図っています。

また、研究開発部門には、職務上の必須事項と位置づけ、新入社員教育から統計的品質管理教育を実施しています。そのほか、2015年度からQC検定等の資格取得を推進し、これまでに多くの合格者を出しています。



本社での品質管理教育

サイバーセキュリティ

フジクラグループは、セキュリティに対する取り組みは企業活動上の最重要課題の一つであると認識しています。2005年に「フジクラグループ電子情報セキュリティ基本方針」および「電子情報セキュリティ基本規程」を制定しました。

2017年度は、eラーニングによる情報セキュリティ研修を実施し、グループ社員9,397名が受講しました。また、標的型攻撃メール対策として、擬似メールによる訓練を実施し、的確な対処

方法の周知を図り、併せて、社内イントラネットでも被害防止のため対処方法を案内し、この徹底に努めています。

さらに、インターネットに接続された機器に関して、セキュリティについての脆弱性診断を定期的実施しています。これらの施策は、今後も継続して、漏れの無い確実な対策を実施していきます。

サプライチェーン・マネジメント

サプライチェーン・マネジメントに関する考え方

フジクラグループは、公平公正で誠実な調達活動を通じ、お取引先との強固な信頼関係を築くために「フジクラグループ調達基本方針」を制定しています。また、RBA(Responsible Business Alliance)の行動基準に準拠した「フジクラグループCSR調達ガイドライン」を制定し、多言語に展開することで、お取引先の皆様とともに取り組みを推進しています。

事業のグローバル化に伴いサプライチェーンも世界中に広

まる中、児童労働・強制労働など人権リスクの把握など人権デューデリジェンス実施へ向けた検討を進め、責任ある調達へ向けた基盤強化に取り組んでいます。

また、フジクラグループは英国法「Modern Slavery Act 2015」への対応として「フジクラグループ 英国現代奴隷と人身取引に関するステートメント」を2017年2月に策定しました。

CSR調達ガイドラインで定める6項目

1 人権・労働

児童労働や強制労働の禁止、適正な労働時間管理、安全衛生、公正な報酬など

2 環境

化学物質管理、法規制の遵守、温室効果ガスの排出量削減、廃棄物の削減等

3 公正取引・倫理

汚職・賄賂および知的財産侵害の禁止、責任ある鉱物調達、不正行為の予防等

4 品質・安全性

製品安全性の確保、品質マネジメントシステムの運用

5 情報セキュリティ

ネットワーク脅威に対する防御、個人情報の漏洩防止

6 社会貢献

国際社会・地域社会への貢献

パートナーズ・ミーティングを通じたコミュニケーション

フジクラグループでは、お取引先の皆様との直接対話の場として、東京・上海・バンコクで「フジクラグループ・パートナーズ・ミーティング」を毎年開催しています。パートナーズ・ミーティングを通じてお取引先の皆様との連携を深め、サプライチェーン全体でCSR調達を推進しています。また、アンケートを行い、環境配慮や人権リスクの把握などの課題を抽出しています。アンケート結果は、お取引先にフィードバックし、情報の共有を図ることでコミュニケーションを活性化させています。



タイ王国でのパートナーズ・ミーティング

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

フジクラは、成長戦略を実現するため、以下のコーポレート・ガバナンス体制が最適と考えています。このコーポレート・ガバナンス体制構築のため、監査等委員会設置会社を採用しています。

①取締役会での意思決定の高度化

フジクラは、取締役会において、成長戦略の中核となる年度および中期の経営計画や規模の大きいM&Aなどの重要な事項について、十分かつ充実した審議をもって決定する体制を構築すべきと考えています。そのために、各カンパニーを統括する事業に精通した社内の業務執行取締役だけでなく、多様な知見を持ち、かつ、社内の事情に左右されない客観的な意見を持つ複数名の社外取締役を置くことにより、取締役会において十分かつ充実した審議をもって決定する体制が実現できると考えています。

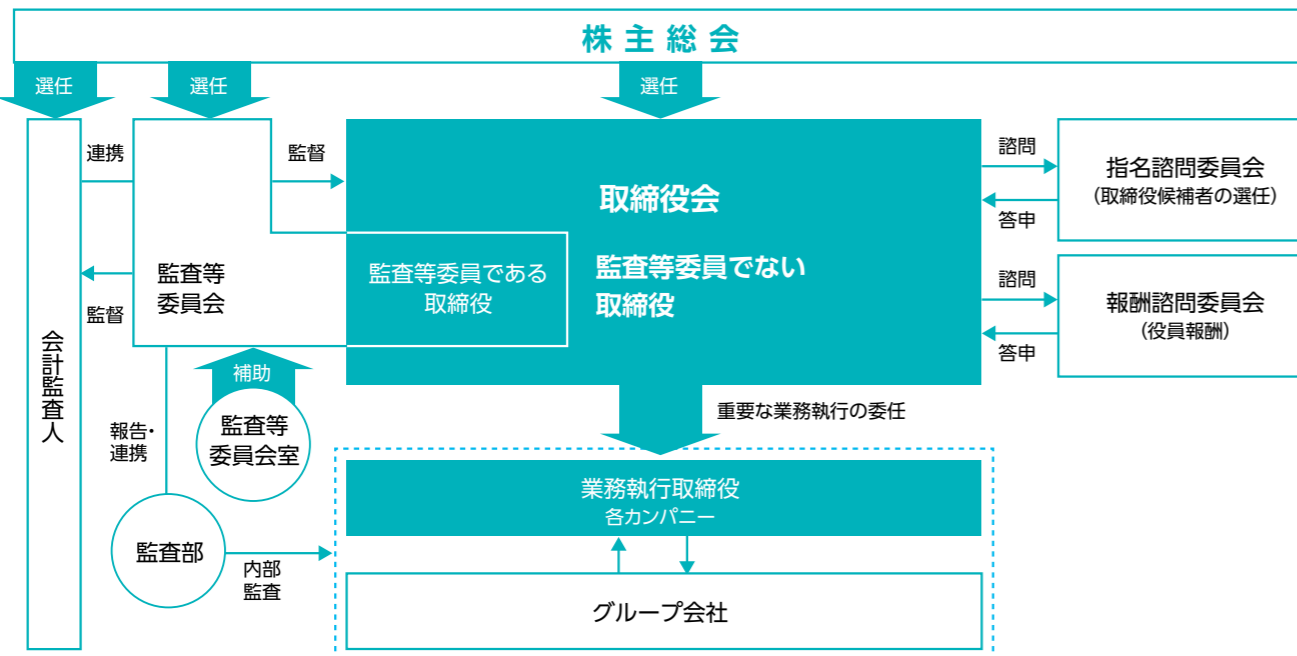
フジクラの社外取締役は、企業の経営経験者2名(金融業および製造業)、弁護士および公認会計士の計4名です。

②業務執行取締役への権限委譲

フジクラは、全社の主要な事業を3つのカンパニー(エネルギー・情報通信カンパニー、エレクトロニクスカンパニー、自動車電装カンパニー)として組織し、各カンパニーを統括する業務執行取締役を定め、カンパニーに専属する事項や比較的风险の少ない事項については、当該業務執行取締役が迅速果敢な意思決定を行える機動的な体制が必要であると考えています。そのため、各カンパニーを統括する業務執行取締役に大幅に権限委譲することによって、これを実現する体制としています。

なお、フジクラは業務執行取締役の指名および報酬の決定に係る客観性および透明性確保のため、取締役会の諮問機関として、社外取締役を過半数とする指名諮問委員会および報酬諮問委員会を設置しています。業務執行取締役は、指名および報酬の面で各委員会から客観的に評価される体制となり、業務執行取締役の業績向上へのインセンティブを高めることができると考えています。

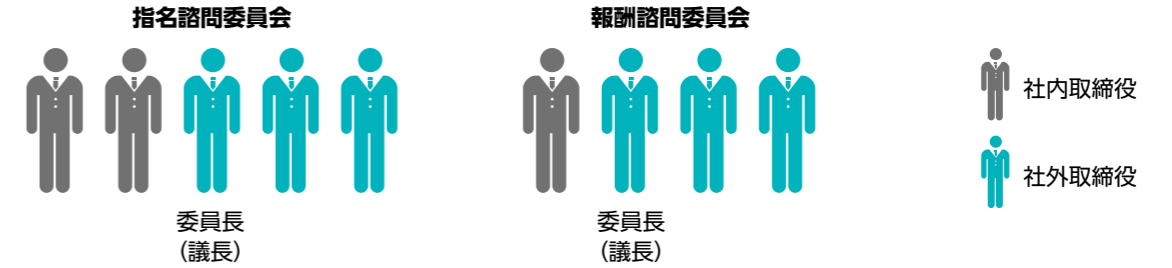
■コーポレート・ガバナンス体制



※詳細はコーポレート・ガバナンス報告書を参照ください。

http://www.fujikura.co.jp/ir/management_policy/governance/_icsFiles/afieldfile/2018/07/18/20180717_gad.pdf

■委員会の設置状況



役員報酬

フジクラは取扱製品が多様多様なだけでなく、グローバルに事業を展開しており、取締役の業務も高度で多岐にわたります。

このため、取締役の報酬は、このような業務に対応し得る優秀な人材にふさわしい水準であることを基本とし、さらに複数の調査機関による主に上場会社を対象とした調査結果を参考としています。また、取締役の報酬を以下の3つの区分で構成し、全体

として客観的な指標と評価に基づくとともに、業績への連動性を強めたものとしています。報酬額の決定は、取締役会の諮問機関である報酬諮問委員会の答申を経ることとしています。

なお、業務執行取締役以外の取締役の報酬は、その役割に鑑みて固定額である基本報酬のみとし、短期業績連動報酬および株式報酬は支給しません。

■報酬区分

基本報酬	取締役の監視・監督機能に相当する部分として、役位別の固定額とします。
短期業績連動報酬	役位別の基礎額を設定し、全社業績または管掌部門の業績に応じて一定の指標(営業利益率、株主資本利益率(ROE)、投下資本利益率(ROIC))に基づき、当該基礎額の0%から200%の範囲で支給することとします。
株式報酬	金銭報酬に加えて、フジクラ普通株式を報酬として交付します。取締役が、株価上昇によるメリットを享受するのみならず、株価下落リスクをも負担し、株価の変動によるメリットおよびリスクを株主の皆様と共有することで、企業価値の向上に貢献する意識を高めることを目的とする報酬です。

コーポレートガバナンス

役員紹介

フジクラグループの役員をご紹介します。(2018年6月28日現在)

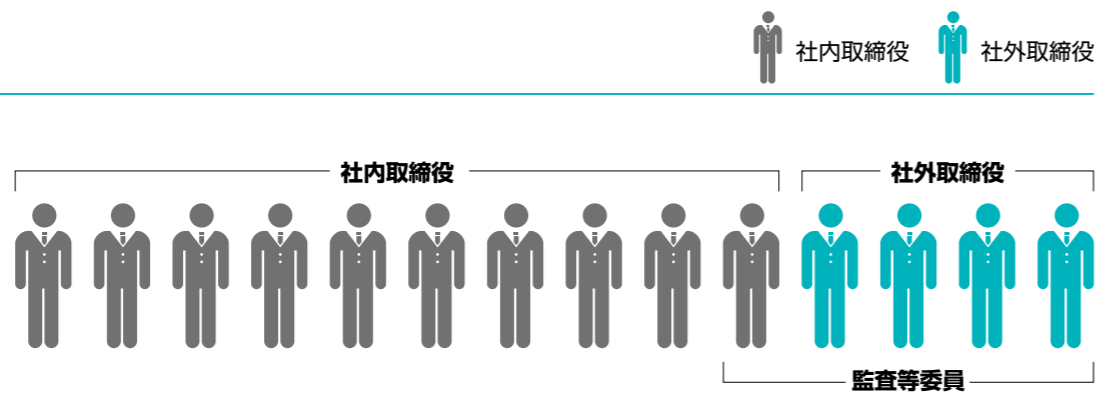


取締役の構成

取締役

14名
うち監査等委員

5名
(うち社外4名)



社内取締役 社外取締役

役員一覧



取締役

- ① 代表取締役
取締役社長 伊藤 雅彦
- ② 代表取締役
専務取締役 和田 朗
- ③ 常務取締役 笹川 明
- ④ 常務取締役 細谷 英行
- ⑤ 常務取締役 北島 武明
- ⑥ 常務取締役 滝沢 功
- ⑦ 常務取締役 伊藤 哲

- ⑧ 常務取締役 Joseph E. Gallagher
- ⑨ 常務取締役 小林 郁夫
- ⑩ 取締役 常勤監査等委員 小田 康之
- ⑪ 取締役 監査等委員(社外) 関内 壯一郎
- ⑫ 取締役 監査等委員(社外) 下志万 正明
- ⑬ 取締役 監査等委員(社外) 阿部 謙一郎
- ⑭ 取締役 監査等委員(社外) 白井 芳夫

執行役員

- 常務執行役員 池上 正浩
- 常務執行役員 鈴木 貞二
- 常務執行役員 佐藤 武司
- 常務執行役員 中山 幸洋
- 常務執行役員 稲葉 雅人
- 常務執行役員 西出 研二
- 常務執行役員 原 良一
- 常務執行役員 瀧村 欣也

- 執行役員 佐藤 公紀
- 執行役員 後藤 秀雄
- 執行役員 三戸 雅隆
- 執行役員 齋田 昭
- 執行役員 森本 朋治
- 執行役員 関川 茂夫
- 執行役員 田中 大一郎
- 執行役員 植木 重夫
- 執行役員 福原 純二
- 執行役員 植田 広二

グローバル執行役員

- グローバル執行役員 Gordon Tan
- グローバル執行役員 羽生 隆晃
- グローバル執行役員 Jason Peng

社会貢献活動

国内グループ会社の活動

緑地整備

特例子会社のフジクラキューブでは、本社と佐倉事業所の緑化作業・環境整備を行っています。グリーンカーテン設置など、CO₂削減に向けた取り組みに積極的に取り組んでいます。



フジクラキューブ

資源の有効活動

フジクラキューブでは、電線ドラムの解体廃材を有効活用した木材チップを園芸用として販売しています。グループ各社から廃材を購入し、チップ機で製造・袋詰めをして『まごころウッドチップ』と命名し、市価の半額程度で現在3カ所で販売し、地域の方々からもご好評をいただいています。



福島復興支援活動

フジクラグループでは、今も続く東日本大震災の復興への戦いと原発事故の風評被害で苦しむ福島の皆様への応援をすることと、心に深く刻んだ東日本大震災の体験を、時間の経過の中でも「決して忘れない」「絶対に風化をさせない」の決意で、来たる巨大地震に備えるという思いから、「福島へ行こう!」キャンペーンを続けています。

昨年に引き続き、福島県南相馬市で復興支援ボランティア活動を行いました。社員13名が参加し、竹藪の整備を行いました。

また、都内にある福島県産の物産品を扱う店に足を運び、福島の名産品を購入し、食べて応援するなど、自分たちができる活動を続けています。



海外グループ会社の活動

Habitat for Humanityに参加

FAI社(Fujikura America, Inc.)では、Habitat for Humanity(ハビタット・フォー・ヒューマニティ)というNPOが行っているプロジェクトに参加し、子どもたちが遊ぶプレイハウスをつくりました。

社員が協力してプレイハウスをペイントし、組み立て、でき上がったものを寄付しました。



*Habitat for Humanity(ハビタット・フォー・ヒューマニティ)は、世界70カ国以上の国で住宅支援を行う国際NGOです。

FAI (米国)

恵まれない人々への寄付活動

FAI社では、社員から缶詰、暖かい衣類、おもちゃの寄付を募りました。集まったものをNPO3社それぞれを通じて、感謝祭やクリスマスなどの恵まれない人々に配りました。



マングローブの植樹

FETL社(Fujikura Electronics (Thailand) Ltd.)では、環境保全に向けた活動を推進するため、マングローブの植樹を継続して行っています。ナワココンやアユタヤなどFETL社の工場の多くの社員が、この活動に参加しています。また、マングローブの植樹のための寄付も行っています。

FETL (タイ王国)



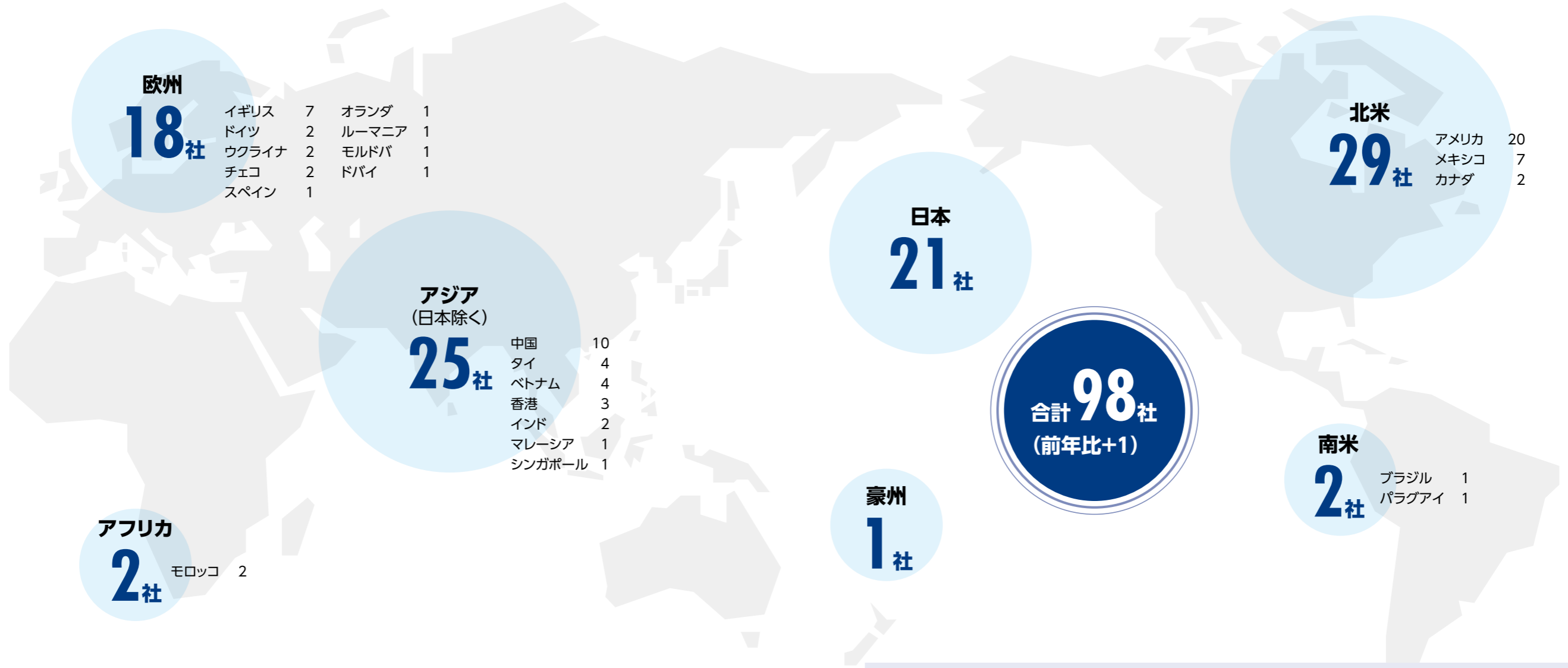
上海児童医療センター内の孤児院訪問

FCH社(Fujikura (China) Co., Ltd.)では、中国地区にあるグループ会社と連携し、上海児童医療センター内の孤児院(上海宝贝之家)を訪問しました。

この孤児院でボランティア活動および寄付を行いました。短い時間ではありましたが、子どもたちと触れ合い、有意義な時間を過ごしました。



グループネットワーク



主要会社一覧 (2018年3月末現在)

日本

- 協栄線材(株)
- (株)フジクラコンポーネンツ
- フジクラソリューションズ(株)
- 第一電子工業(株)
- (株)東北フジクラ
- 西日本電線(株)
- 沼津熔銅(株)
- 藤倉商事(株)
- フジクラプレジジョン(株)
- フジクラ電装(株)
- (株)スズキ技研
- (株)フジクラエンジニアリング
- プレジジョンファイバオプティクス(株)
- (株)シンシロケーブル
- (株)青森フジクラ金矢
- フジクラ物流(株)
- 富士資材加工(株)
- (株)フジクラ・ダイヤケーブル
- 米沢電線(株)
- ファイバートック(株)

持分法適用関連会社

- 藤倉ゴム工業株式会社
- 藤倉化成株式会社

中国

- 藤倉(中国)有限公司
- 藤倉電子(上海)有限公司
- 藤倉(上海)通信器材有限公司
- 江蘇藤倉亨通光電有限公司
- 第一電子工業(上海)有限公司
- 藤倉烽火光電材料科技有限公司
- 珠海藤倉電装有限公司
- 広州藤倉電線電装有限公司
- 藤倉香港有限公司

タイ

- Fujikura Electronics (Thailand) Ltd.
- DDK (Thailand) Ltd.
- Fujikura Automotive (Thailand) Ltd.

南・東南アジア

- Fujikura Asia Ltd.
- Fujikura Federal Cables Sdn. Bhd.
- PT Fujikura Indonesia
- Fujikura Asia (Malaysia) Sdn. Bhd.
- Fujikura Electronics Vietnam Ltd.
- Fujikura Fiber Optics Vietnam Ltd.
- DDK VIETNAM Ltd.
- Fujikura Automotive Vietnam Ltd.
- Fujikura Automotive India Private Ltd.
- Fujikura Korea Automotive Ltd.

ヨーロッパ、中東、アフリカ

- Fujikura Europe Ltd.
- Fujikura Automotive Europe S.A.U.
- Fujikura Automotive Europe GmbH
- Fujikura Automotive Romania S.R.L.
- Fujikura Automotive Morocco Tangier, S.A.S.
- Fujikura Automotive Morocco Kenitra, S.A.S.
- Fujikura Automotive Ukraine Lviv LLC
- Fujikura Automotive Russia Cheboksary LLC
- Fujikura Automotive MLD S.R.L.

アメリカ

- America Fujikura Ltd.
- Fujikura America, Inc.
- AFL Telecommunications LLC.
- Fujikura Automotive America LLC.
- Fujikura Automotive Mexico, S. de R.L. de C.V.
- Fujikura Automotive Paraguay S.A.
- Fujikura Cabos Para Energia e Telecomunicacoes Ltda.

会社概要・株式情報

会社概要

商号 株式会社フジクラ (Fujikura Ltd.)
 創業 1885(明治18)年 2月
 設立 1910(明治43)年 3月
 資本金 530億円(2018年3月31日現在)
 本社 〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1

株式に関する事項 (2018年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 1,190,000,000株
- 発行済株式の総数 295,863,421株
(自己株式9,451,530株を含む。)
- 株主数 28,997名
(前期末比8,439名増)

4.大株主

株主名	所有株式数 (千株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	26,769	9.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	26,363	9.20
三井生命保険株式会社	10,192	3.56
株式会社三井住友銀行	8,456	2.95
株式会社静岡銀行	7,713	2.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行退職給付信託口)	6,777	2.37
DOWAメタルマイン株式会社	6,563	2.29
JP MORGAN CHASE BANK 385632	6,530	2.28
フジクラ従業員持株会	4,656	1.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	4,563	1.59

(注) 1.上記所有株式数は株主名簿に基づき記載しています。
 2.当社は自己株式を9,451,530株保有しておりますが、上表からは除外しています。
 3.出資比率は自己株式を控除して計算しています。